

火野葦平「中国旅日記」(1955年4月) 翻刻

増田周子

Revised Text of *Travel Diary of China*, Written by Ashihei Hino in April
1955

MASUDA Chikako

This paper introduces *Travel Diary of China*, written by Ashihei Hino in April 1955, with revisions added to the original text. This is the very first time that this travel diary, hand-written by Ashihei Hino, has been made open to the public. Hino participated in the Asian Countries Conference held in New Delhi, India from April 6 to 10, 1955, as one of 34 delegates from Japan. On his way back to Japan, he visited New China with 28 other delegate members, and recorded in this diary what he saw there in detail. Based on this travel diary, he wrote and published *Traveler in a Red Country* (published by Asahi Shimbunsha in 1955). This diary is invaluable because it clearly depicts life in post-liberation China, and provides details about the Asian Countries Conference.

キーワード：新中国 火野葦平 文学者座談会 広東 北京 武漢 漢江 李徳
純スーチャー

はじめに

1954年6月19日から23日まで、ストックホルムで「国際緊張緩和のための集り」が開催された。これに参加したアジア諸国代表のあいだで「アジア諸国会議」の開催が決定され、ラメシュワリ・ネール夫人を議長とする準備委員会が発足した。これを受け日本でも1954年12月16日に準備委員会を発足する。その後、「アジア諸国会議」は、1955年4月6日から10日までインドのニューデリーで開催の運びとなったのである。日本は、日本代表団長 松本治一郎、副団長 谷口三郎と決定。次の34名とオブザーバー2名をニューデリーに派遣した。以下にあげているのは、派遣されたメンバーとその担当分野である。

(政治問題) 田畑 忍・黒川信夫・吉田法晴・高良とみ・神山政良・朝田善之助・牧之内武人・坂本徳松

(経済問題) 中村義麿・松岡武一郎・小林義雄

(文化問題) 安部さみ子・木下順二・火野葦平・近藤忠義・鈴木朝美・松本正夫・栗林彦衛・丹野節子・永瀬清子

(科学技術問題) 隈部英雄・吉岡金市・富永五郎・早坂一郎・秋元 正

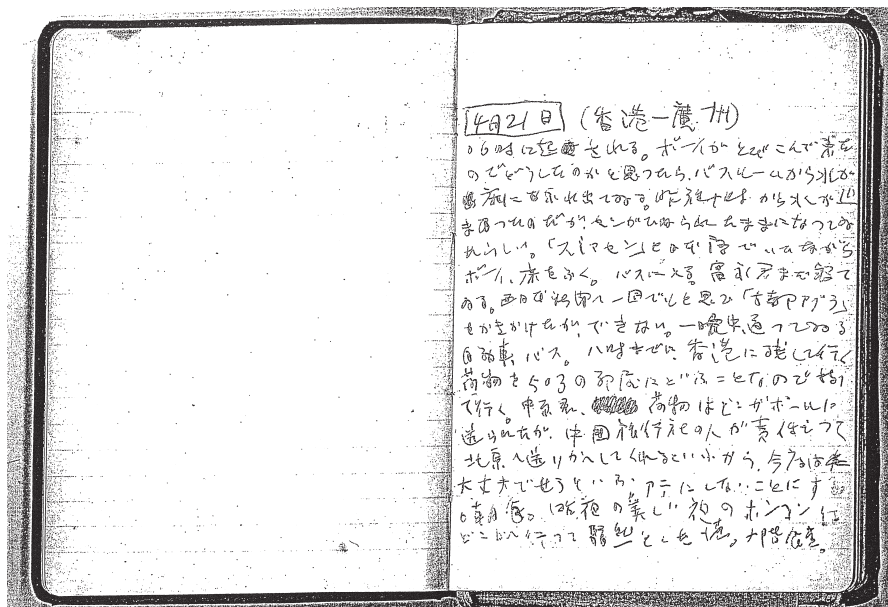
(労働問題) 松本 広・吉見松雄・泊谷裕夫・杉浦正男

(宗教問題) 来馬琢道・泉 園子・福田今寿

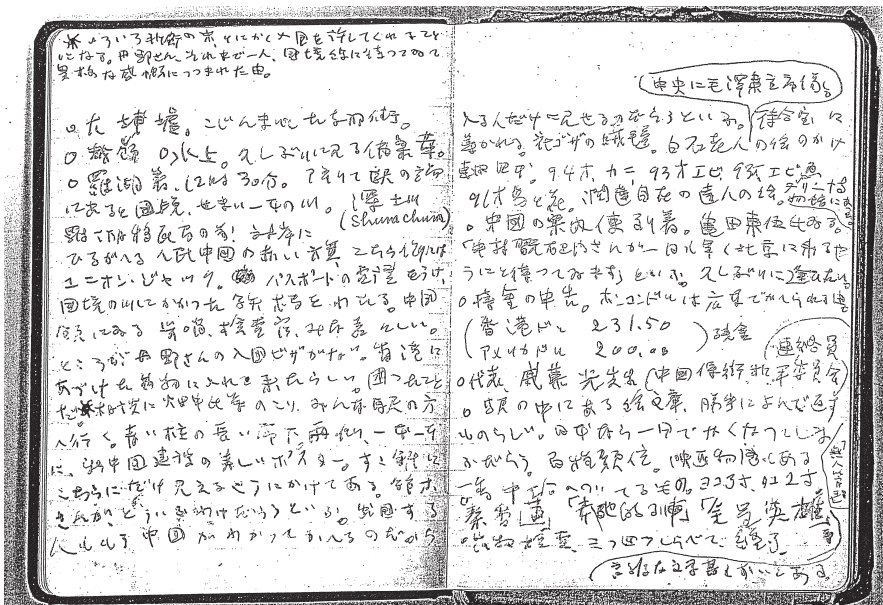
(オブザーバー) 吉田敏夫・出口新衛

インドのニューデリーで開催された「アジア諸国会議」には、インド、中国、日本、ソ連、ビルマ、パキスタン、ヴェトナム民主共和国、朝鮮人民共和国、セイロン、レバノン、ジョルダン、シリア、蒙古など14カ国の代表約200名が参加した。このうち28名がその帰途、中華人民共和国を訪問、解放後の新中国をつぶさに見てくることとなった。火野葦平もその一人であった。¹⁾

ここに紹介する「中国旅日記 (1955年)」は、「アジア諸国会議」後に、新中国を訪問した火野葦平が見、感じた中国の様子である。「日記」の体裁は、横9.5cm、たて13.5cm。黒革表紙の「MEMORANDUM」と書かれた手帳である。一頁目に「中国旅日記 (1955年4月)」と書いて、1955年4月21日から5月4日までの中国の様子などを絵や欄外の説明を加えながら克明に、詳細に記録している。「日記」の記述以外にも、当時の中国カレンダー、地図、映画、観劇したポスターやパンフレット、領収書などを細かく添付している。添付物の中で最も重要なものは、「中共に密告の嵐」(『読売新聞』1955年5月3日)の記事である。添付物を除いて、総頁数は169頁である。日記の冒頭部分を現物で入れてみる。



1) アジア諸国会議日本準備委員会編『14億人の声：アジア諸国会議およびアジア・アフリカ会議記録——1955年4月——』(1955年5月20日、おりぞん社、5～8頁)



日本の一作家の記録であるが、当時の建国後数年の新中国の様々な事情や、文学者座談会の様子などが具体的にわかり、歴史的資料のみならず、日中の文化交渉の資料としても極めて重要である。

この日記をもとに、火野葦平は、『赤い国の旅人』(1955年12月23日、朝日新聞社)を著した。火野葦平は、『赤い国の旅人』(1955年12月23日、朝日新聞社)の「あとがき」で

前に兵隊として、また報道班員として中国各地を歴訪した私は、普通のルポルタージュや視察記ではなく、自分の精神の問題としての旅行記、また一個の文学作品となるような魂の記録にしたいという意図があった。²⁾

と述べている。このように、「中国旅日記」は、精魂こめて正直に、辛いこともすべてそのままに受け止め、記録した日記である。「中国旅日記」と『赤い国の旅人』には、相違点もあるので、『赤い国の旅人』の成立に関しては、稿を改めて詳述したい。

なお、「中国旅日記」を翻刻、紹介するにあたって、欄外に書かれた記述については、*を付して紹介した。どうしても判読できない部分に関しては□で示した。なお、本稿に図を入れたが、その図は全て火野葦平の手書きのものである。図の書き込みは、可能な限り増田が翻刻した。

さて、「中国旅日記」には郭沫若、李徳全、胡風をはじめ著名な人物が登場する。通訳として登場する李徳純氏は、現在中国社会科学院特約研究員をなさっている方である。李徳純氏は、1926年に中国遼寧省で生まれ、1944年来日して旧制一高に留学するが、戦争のために中退、帰国。その後中国・東北大学を卒業する。安部公房、遠藤周作、井上靖、三島由紀夫など多くの日本近代文学者の翻訳を手がけた。日本で出版した著書には、『戦後日本文学管窺——中国的視点』(1986年11月20日、明治書院)があり、評論「愛・美・死——日本文学論」(『文学』1996年10月11日)などがある。³⁾ 増田は、2009年8月3日～

2) 火野葦平『赤い国の旅人』(同、310頁)

3) 李徳純「旧奉天で過ごした安部公房氏の文学」(『朝日新聞 夕刊』1996年3月18日、7面)や、李徳純「中国での遠藤周作紹介 日本軍国主義批判を評価」(『朝日新聞 夕刊』1997年3月11日、5面)などを参照。

4日に南京大学で開催された「日中言語文化国際シンポジウム2009」⁴⁾で、火野葦平に関する口頭発表をした。その折りに、生前の火野葦平氏の思い出話を聞かせて頂いた。李徳純氏の言う「火野葦平は平和主義者だった」という言葉は印象的で、翻刻に当たって励みになったことを付け加えておきたい。ちなみに、「アジア諸国会議」は、壇上に「アジアの連帯と平和万才」の金文字⁵⁾が掲げられ、アジア諸国の平和を願って開催された。新中国の訪問も日中友好が目的であった。

翻刻するにあたって、火野葦平資料館の市川嘉男様はじめ皆様方には貴重な資料の閲覧を賜り、深く感謝申し上げます。また、翻刻・紹介を快諾して下さいました火野葦平御三男の玉井史太郎様に厚く御礼申し上げます次第です。

「中国旅日記」(1955年4月)

4月21日 (香港—廣州)

- 6時に起される。ボーイがとびこんで来たのでどうしたのかと思ったら、バスルームから水が床にあふれ出てゐる。昨夜十時から水が止まつたのだが、センがひねられたままになつてゐたらしい。「スミマセン」と日本語でいひながらボーイ、床をふく。バスに入る。富永君まだ寝てゐる。西日本新聞へ一回でもと思ひ「古都アグラ」を書きかけたが、できない。一晩中、通つてゐる自動車、バス。八時までに、香港に残して行く荷物を503の部屋にといふことなので持つて行く。中原君、荷物はシンガポールに送られたが、中国旅行社の人が責任もつて北京へ送りかへしてくれるといふから、今度は大丈夫でせうといふ。アテにしないことにする。
- 朝食。昨夜の美しい夜のホンコンはどこかへ行つて騒然とした港。十階食堂。
- 今日、エリザベス女王29才の誕生日。街では市中行進があるらしい。バリケードがきづかれ、警官がたくさん立つてゐる。女房と女史(河出新書版、河童のあとがき)を航空便で出す。一同集合、新樂大酒店(Shamrock Hotel)を揃つて出、バスで停車場(車站)に行く。食堂で点呼、28名。四班にわけゝる。廣東送りの荷物のこと、いくらいつても数があわない。四回目にやつとわかる。中国に入れば統制ある恥かしくない行動をとらうといふ申しあはせ。これまでの全体会議とはちがふのだが、すこし心配でもある。中国旅行社の人たち、よく世話を焼いてくれる。香港からすでに招待になつてゐるとも連絡うけてある。すこし港附近を散歩、政雄のこと。マージャン、バクチ、朝から。
- 道傍で幾組もマージャンしてゐる。竹でなく、ミドリいろ。(15年ぶりに乗る支那の汽車)
- 九龍站、11時25分出発。火車。頭等車。広軌なのでひろく気持がよい。中に卓、四人向きあつて坐る。風景は日本とよく似てゐる。すっかり田植を終つた水田。珍しい松の木。
- 沙田^マ。左急、海沿ひに走る。舗装道路の上に、SLOW 漫馳とかいてある。ジャンクの群。右の山は馬鞍山、新しく発見された鉄鉱石、八幡製鉄その他と交易してゐるもの。

4) 解釈学会、南京大学、南京外国語大学共催「日中言語文化国際シンポジウム2009」(於) 南京大学

5) 『14億人の声：アジア諸国会議およびアジア・アフリカ会議記録——1955年4月——』(同、9頁)

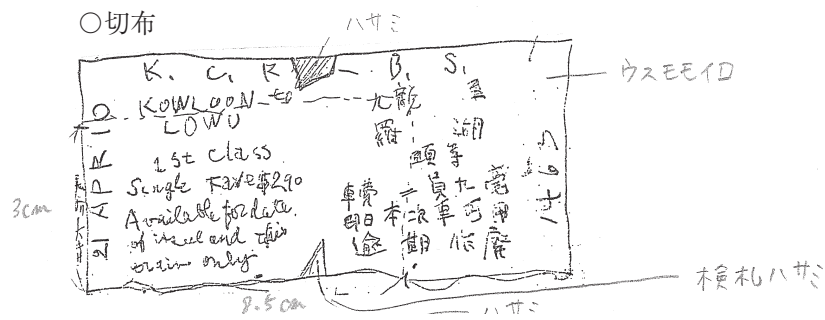


図1

- 大坤墟。こじんまりした支那街。
 - 裁嶺 ○水上。久しぶりに見る併桑華。
 - 羅湖着、12時30分。降りて駅の端に出ると国境、せまい一本の川。深 圳 羅湖移民局の前、対岸に
(Shun Chum)
ひるがへる人民中国の赤い旗、こちら側にはユニオン・ジャック。パスポートの査證をうけ、国境の
川にかかった鉄橋をわたる。中国領にゐる歩哨、検査官、みな若々しい。ところが、丹野さんの入国
ビザがない。香港にあづけた荷物に入れて来たらしい。困ったことだ。相談に畑中氏等のこり、みん
な駅の方へ行く。青い柱の長い廊下。両側、一本一本に、新中国建設の美しいポスター。すぐ斜にこ
ちらにだけ見えるやうにかけてある。鈴木さんが、どういふわけだらうといふ。出国する人ももう中
国がわかつてかへるのだから、入る人だけに見せるのだらうといふ。
 - * いろいろ折衝の末、とにかく入国を許してくれることになる。丹野さん、それまで一人、国境線に待
つてゐて、異様な感慨につつまれた由。
中央に毛沢東主席像。待合室に導かれる。花ゴザの絨毯。白石老人の絵のかけ軸四本。94才、カニ、
93才エビ、93才、エビと魚、91才鳥と花。闊達自在の達人の絵。デリー博物館にあつた。
 - 中国の案内使到着。亀田東伍氏ゐる。「中村翫右衛門さんが一日も早く北京に来るやうにと待つて
ます」といふ。久しぶりに逢ひたい。
 - 持金の申告。ホンコンドルは広東でかへられる由。
(香港ドル 231.50) 残金
(アメリカドル 200.00)
 - 代表、威慕光先生(中国保衛和平委員会連絡員)
 - 駅の中にある絵文庫、勝手によんで返すものらしい。日本なら一日でなくなつてしまふだらう。百
種類位。映画物語もある一番手垢のついてるもの。ヨコ3寸、タテ2寸。「秦香蓮」「奔馳的列車」「金
星英雄」「無人管理」等。高級な文学書もすこしある。
 - 荷物検査、三つ四つしらべて、終了。
 - 迎への人たち。みんなていねいである。
- 威慕光 (Chi mu Koun) ——代表

(通訳) 王保祥 (Wan po shien)
蘇 琦 (su chi)
李徳純 (リー、ター、チュン) Li tea chun
呉厚俔 (ウー、イン、ビアン)
賀法嵐 (ホア、ファ、ワン) ——次席

* 傾いてゐる

農婦のかぶつてゐる市女笠の

やうな笠

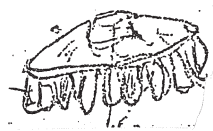


図2

タレ (黒維)

* 汽車の中で李君と話す——「麦と兵隊」のこと その他

- 列車に乗る。硬席車と軟席車。軟席車に乗る。中国側の人、みんな日本語で、気持よく話す。汽車の中の虻。
 - 昼食。食堂へ。おいしい中華料理。ビール。
 - 2時15分、発車。すこし眠る。
 - 石龍着。十二分停車、降りてみる。パパイヤの木。この町に、三日間ほど泊ったことがある。しかし、駅だけでは町の様子はわからない。駅の露店がずらりとならんでゐる私営の連合組織らしい。と攤聯番号の入った白い制服を着てゐる売子たち、娘、婆さん、爺さん。チマキを亀田さんが買つてくれる。「滅蠅数字公佈表」が張つてある。ハエを殺した毎日の個人記録。4時55分発。(時間は香港より一時間遅らせた。サンマータイムだったらしい。どうも時差がヤヤコシイ。)
 - 石灘駅。ここも知つてゐる。広東が近づくにつれて、感慨が揮へがたくなつて来る。芭蕉、猩々木、鳳凰木。部落に高い塔のあるのは、地主の家で、農民を鎮圧するトーチカと、通訳青年おしへてくれる。水が少なくてかわいてゐる土地。しかし、すこし行くと、洪水のあとがあり、水田は水びたし。田植えしてゐる田。水上げ機械、古風なもの。足で踏むもの、手で廻転させるもの。
 - 車窓から見える中山大学。色が新しい。
 - 広東着。午後七時(広州站)出迎への人。街の電燈が暗い感じ。香港が明るすぎたせいかも知れない。にぎやか。バスに乗つて街へ。見おぼえのある街角。しかし、街の繁栄してゐるさまは昔とちがつてのびのびしてゐるやうだ。あの当時の復興は歪なものであつた。バスは珠江岸に出る。もうもう光る水、眼にしみるやうだ。
 - 愛群ホテル(愛群大厦)五〇五号室。駒田氏と同室。シャツの洗濯をする。バスの水がきれい。
 - 窓から見おろす珠江と蛋民船、方々へ行く連絡船の棧橋、ここから佛山鎮、江門の方へ行つたことがある。美しい対岸の灯。ポンポン船やディーゼルエンジンの音。珠江の詩をいくつも書いた中山省三郎。
- * 映画館で日本の「混血児」をやつてゐる。
- 午後八時晚餐。平和委員会副主席羅培元さんの招待。メインテーブルに坐れといはれる。婦女聯合会事務室主任、何明さん同席。通訳は蘇琦嬢。まだ二十才すこし位であらうか、おどろくほど日本語

が上手で、しつかりしてゐる。羅さんの歓迎の挨拶で開宴。豪華な広東料理。インドがひどかつたので、珍しくおいしい。スーチー嬢が、この中で前に広州においでになつた方は、ときく。十六年前に一年ゐたと答へて、いはなければよかつたと思つた。日本の兵隊として来たといふこと、戦争に関する文章をかいたといふことは、新中国に来ると、なにか引つかかるものがある。列車の中で、李徳純さん(一高で学び、昭和十九年、両親が心配するので、日本を去つたといふ)と話したとき、李さんは、「麦と兵隊」の英訳(ブッシュさんのではなくて、市川三喜博士監修 鈴木一高教授訳)をよんだといひ、中国文壇の話、紅樓夢と古典文学のことなど、気持よく語りあつたが、自分としてはつねに心の中に矛盾がある。いろいろなことが、他の人たちのやうに、のんきにしゃべれない。短い言葉ではわかりにくいし、なにを話してもみんな戦争中のことにつながってくるので、控へ目にしてゐたくなる。

ただ黙つて、人の話をきき、見るだけのものをぢつと見て、勉強だけしたいと思ふ。

* 広州側出席者 副主席 楊康華、総工会宣伝部副部長 徐達

○ 吉岡さん、団長として挨拶。李さんが通訳。ていねいだがすこし長いやうだつた。

○ 羅培元さんは庶民的な感じの、意志の強さうな人、話しぶりは静かだが、自信にあふれてゐる。日本代表がいろいろなことをいふのを終始微笑をもつて聞き、答へる。

* 吉岡氏ロードー技術 中林氏 $\left(\begin{array}{l} \text{重企業} - 15\% \\ \text{中小企業} - 85\% \end{array} \right)$ 事業所
時事論

* □□□と社会賞。アベ 平和運動の自信——松本 陳残雲さんと兵隊作家

○ 川ぶちに出てみる。はじめて広東の街を歩くのである。ここを珠江の好きな省三郎とよく歩いた。江門に行くとき、棧橋の前で握手して憲兵から怒られた思ひ出。握手は米英といふのであつた。下流に沿つて行くと、たくさん出てゐるパンパンの老若。ヤリ手ババ。引つぱりに来るので、丹野さんを「太太」といふと苦笑して逃げた。野鷄はなくなつてゐるのかと思つてゐたので、すこし意外であつたが、やはり人間世界の業の清算は容易なことではないのだと痛感された。昔は愛群もパンパンホテルであつた。香港では、新樂ホテルで、部屋つきボーイが女をすすめに来た。アンマ20円、一発30円といつた。北京前面外はどうなつたか知らん。美しい灯のゆらめく珠江の水面。
タイタイ ヤーチー ママ チェンメンワイ

* 「パンパンがゐたよ」「そんなことは絶対ない」「そんなら、あしたの晩行つてごらん」

○ 全体会議(十時半)

もうすこし統制ある行動をとること。言葉をつつしむこと。禁句の二つ三つ、満州→東北、北支、南支、中支→華北、華南、華中、大東亜戦争→太平洋戦争、若い通訳君たちをいたはること。誰か「オイ」といつたらしい。支那とは絶対にいはぬこと、など。

4月22日(廣東)

○ 騒々しい珠江。朝早くから、船の汽船、蒸気音、やかましくて眠れない。窓をしめておけばよいのであつた。どんよりと曇つてゐる。

○ 朝食。おいしいオカユ。香港ドルかへをたのむ。

○ 今日はレーニン85周年誕生日で、お祝ひがある由。昨日はエリザベス誕生日であつた。面白い対照。

○ 9時15分バスで出発。見おぼえのある通りに入る。もと、報道部だつた建物ちらと見える。

- 日本人珍しいらしく見物される。
 - 中山記念堂の青い屋根。
 - 越秀山。中山記念塔。立派な体育場。まだ単に広場だったころ、よく野球をやった。バスケット、ランニングなどやつてゐる。
 - 広州博物館。正面に毛主席像。
 - 石器、銅器時代の面白い遺物。中に古文字のかいてある釜、壺。
 - 酒壺、鳥壺、双魚洗（水鉢）
 - 大規模の建設をやつて土をほりかへしてゐると、いろいろなものが出て来る。
 - 銅鼓（戦争のときたたく）
 - 銅壺 漏滴（公元1316年）
 - 広東白鳴鐘（清代乾隆年間1935～1994迄）オルゴール式 金色燦然、文字盤上のミニアチュール動く。
 - 「皆さんにきかせようと思つて、十時前と思つたのにおくれて、惜しいことしましたね」とスーチー嬢いふ。
 - 古い天文書。
 - 三階、広東工芸、精緻な彫刻。
 - 陽江窟、宋代の壺、青の色すばらしい。今でも陽江辺でできてゐる石湾窟（広窯）といふ。猫（近代）神態生物逼真とかいてある。蘇武像、造強像。
 - 石刻・石硯—瑞州、すつても容かせず水をすはしない。画家文人珍用。
 - 象牙 ○象橋— 一本の象牙で十二匹彫つてある。
 - 二十二層 象牙王犬（40年かかつた）1912～1952 合作、中の玉うごくデパートで三十五層売つてゐる。
 - 王琺瑯 玻璃画
 - 広東刺繡——孔雀図
 - 清代 四品安人女制服。（美麗）
 - 潮派 拙紗、（スワトウ）
 - 酒堂柳教図 倒日本島
 - 潮壺、鉄壺
-
- 広州市——九五四年（四階）
墓建^{マツ}工程出土文物 石斧（五千年前）、銅器、首かざり類
 - 建築模型
 - 五階 革命文物。（そのときの鉄砲）鴉片戦争 林則除 新民主主義革命、託□類
 - 油印革命文献——出る。
 - 中山記念塔。
 - 曇り空は眼下の広東市街も燻らせはじめ、六榕寺（六角塔）が霞んでゐる。

- 中山記念堂。あとで塗りかへられたらしく色があざやか。堂の前の孫逸仙像。またも省三郎のこと思ひだす。
- どこにもある「台湾回復」「台湾解放」の字付ポスター、絵。
- 中に入る。階段をのぼる足が重い。
- 舞台があつて、大集会場になつてゐる。
- 1929年—1941年(□□) □□ 八角形 天井高サ47m 幅220フィート
- 芝居、映画、その他。(この中でやつたことの苦い回想。)

工会——労働組合

- 農民運動講習所。(中山路) すばらしく豪華けんらん。
- 1923年共産党が国民党を援助して組織改革した。同時に広東において、統一戦線の革命政府を成立した。講習所は1924年、地区から全国的に拡大、1926年3月 毛主席みづから所長、当時327名、各地から外蒙、チベット、学習。毛—中国革命史、農民運動、宣伝工作の三つの研究。講義をうけもつ。周恩来も軍事問題研究、彭湃—広東農民運動、呉玉章—唯物史観 共産主義外交、講義、郭沫若、李富春、登嶺超 林伯濬などが講義うけもち、名目は農民運動だが、共産主義革命の学校であつた。革命幹部養成、毛主席はここにゐた時間は短かつたが、多くの革命の基礎を作つた。1953年、この建物を修復した。国際友人が参加することを喜んでゐた。去年、接待のため、この部屋附近を建てた。各部分を見ていただきたい。

- 昔の孔子廟あと。猩々木。木綿の大木、昔は荒れはててゐた。
モーメン
- 教習処 質素な机、椅子、寝台

- =同志寝室

教政長
藩楚女同志的臥室

- | |
|--------------------------------------|
| 毛沢東同志弁公室兼臥室 |
| 毛沢東同志常在這裡工作到深夜
「中国農民運動叢書」就是在這裡編輯的 |

札

- 講義室
マルクス、エンゲルス、レーニン、孫逸山 四人の写真。ガランとした廟に粗末な椅子、講壇。
- 学生寮、鏡、木のベッド
- 食堂、毛主席、学生といつよ。 マンジュウを食べてゐた。
ママ
- 図書室「新青年」
「農民運動」「人民週刊」廖仲愷(志さんの父)「農民組合組織法」
- 教務処 ○ 值星室(当直)
- 庭——散歩、毛所長、学生と懇談し、家庭や生活上の問題も話しあつた。
- 愛群ホテルへ昼食。十二時半。
- 換金のため、ホンコンドルを中原君に全部あづける。(231.50)

- 海珠橋をわたる。これをは爆破されてゐたが、最近通れるようになった。
- 中山大学。1925年成立、1926年中山大学と改めた。説明してくれた人、1935年 (セキバイ) 石牌にうつつた。1952年ここへ移つた。
元の嶺南大学、その他と合併、総合大学。九つの学科があつたが、今は八つ、(中国室語学科は北京大学へ)
中国文学科、西法学科、史学科 物理、科学、生物、地理、その他ロシア語専門、24の教学研究部 附属労働中学、小学校、(教師子弟) 幼稚エン。
- 学生1600名 理科1100、文科500人 学生労働者出身、26.6パーセント 女性値 13% 労働達成中学85%位
- 華僑、少数民族の学生も居る
- 華南植物研究所 (科学院指導)
面積100万平方メートル (?)
校舎 4万 教授 320位 (教授 99 助教授 152 副教授 講師)
予算、1年 200万円 女の先生 10%以上
- 学生、月謝なし、食費も支給。
- 7歳 小学校—6年 (高年教育部、別に教育して大学の試験。落ちるのは少い)
13才 中学校—6年
18才—大 学—4年
- 教育は統一的。
- 卒業生は工場等に入り、又、中学の先生になる。
- 原子兵器反対の運動と結びつく。
- カントンに癩病が多い、物理医学。
- 居眠りしてゐた牧ノ内さん、興味もなささうな様子だが、眠気ざましのつもりか「どんなに貧しい家庭の子でも教育できますか」といふ質問。「さうです。貧富の差なく、学識人材を養ふが目的」
- 安倍さん、先生の給料を問ふ。
- 大学教授 200円位。(人によつてちがふ) 立案のこと (参議院議員らしい)
- 大学全部国立、中学校省立がある。
- 小学校、解放後は7才になるとたいてい小学入学、幼稚園もある。
- ◎ 文物館
孫中山先生記念室。
魯迅先生記念室。(ここの教務主任をしたことがある。)
誕生、浙江紹興 (酒の産地)
1927年1月18日、アモイより広州へ。
1927年2月、文学系主人兼教務主任。
- 1927年15日、「朝花夕拾」を白雲楼で編完したときかいた絵がある。死有分 活無常
- 「海上述林」上下巻、内山書店版。

- 魯迅全集 二十巻まだ後がある。最新版。○魯迅著書集成
- 図書館、楨佈告板。
- 「作品」一九五五年 創刊予告
- 中蘇友好之窗、写真陳列。
- 若々しい大学生たち、女学生活発に話す。生き生きとしてゐる。目標がはつきりしてるからであらう。六角堂の前でみんなで写真をうつす。
- 出発。
- バスが中山路を走ると、チラと報道部のあつた建物が見える。自由ができないので行つて見ることができない。お化けになやまされた宋公館などどうなつたか知らん?
- 七十二烈士之墓。(黄華尚)
1911年、旧民主主義革命の犠牲者、清朝を倒すために武装蜂起した。成功はしなかつたが清朝政府に大きな打撃をあたへた。1911年10月10日、武昌で今一度蜂起、清朝が倒れた。
- 旧民主主義ではあるが、中国民衆解放のためにたたかつた。
- 七十二の墓石、ピラミッド式に。アメリカから持つて来たもの。
- 菊の花鉢(黄)白百合。
- この犠牲者の中には日本留学生も多い。
- 「黄花岡七十二烈士之碑」
- バスで帰る。

朝田氏の話

- 蛋民船。(今は水上生活者)
- 1万4千隻——6万人(1950、教育、各階代表者会議) 1000
- 小学校——3600、八つ。(第三小学校、第四小学校を見た)
寄宿の子供 400 ○附属托児所 ○船で送り迎えしてゐる。
- 産婆 80人早期講習を受けた 全国産婆の数はわからない 川べりに病院 保健所
- 赤ん坊にウキがつけてある。
- 船のヌリカエ、70円。
- 解放後ボスがゐなくなつた。
- 今は水上だけで区別されてゐない。
- 八地区に分れてゐる。水も昔は珠江の水を使つてゐたが今は給水所で清水を給与、しかし、旧習が抜けずに川の水を使ふ。
- 劇場五ツ、幻燈、○船の中で映画、船で見に行く。
- 工作班はモーターボート、スピーカーで宣伝。
- ボスがゐなくなつたため、収入が増えた。
- 「漁民対唱」ウタ(後頁に)⁶⁾

6) 後頁に貼付けている 日本語は、火野葦平自ら記した大意である。

水上民歌 駱洪原作 漁民対唱

你 对面隻魚舟搖搖蕩上 珠江水面升起半邊太陽
 あなたの前に来た舟、ゆらゆらゆれただよふ 太陽があがってきた
 船关漁夫身体健壮 着条黑紗短褲露出赤色胸膛
 へさきの漁夫の身体は健壮で 黒衣着物の下から銅色の胸が光る
 他满面笑容搖呀搖往對漿 又回大望下船尾啊位姑娘
 彼は顔いっぱい笑ひながら相手の舟の娘をちらと見た
 有陣高声把歌仔来唱 有陣音声細語好似有喜事商量
 ときに高い声でうたひだし 時には低い声でささやいた 何だかうれしいことでもあるやうだ
 想起国民党時候淚水像海洋 只有解放今天至有咁舒暢
 想へば国民党のときは涙は海洋のごとく 解放後の今は幸福だ
 辛苦打漁又伝惡項末槍 搶去漁網如搜我命又搶衣裳
 苦勞してとつた魚はすべてとられ 命のやうな漁網も着物もとられた
 剩番幾条漁欲売来將口養 又傳漁桶大秤桶到行
 のこつた数匹の魚を売らうとしても 大きなハカリにかけられて小さな魚のやうにごまかされた
 我地今天漁民有咱共産党 悠淡定飄在江洋
 今は漁民も共産党になつたから 気持はゆったり江洋にある
 睇佢幾咁辛勞又撒一網 有魚有虾有条白鱸尺多長
 見なさい 苦勞してとつたこの網 サカナ、エビなどがドッサリ
 雪白海鮮食殖真軟暢 剩番大漁大蟹買去国营漁市場

珠江区文化館編印

珠工工作班

- 二つの大きな職域組合、漁民、組合、船員、陸上で働く者。
- ^{サンバ}母80円 1年1回トリアゲ1円~1.5円 長男 36円 船員 次男34円 河上運搬 三兄妹二人姉妹 一ヶ月生活費 70円 生活不自由（発動材木）
- 夕食 バスで8時出発（14人位）文物館
- 嶺南文物館（日本軍爆撃の跡といふ）
- 歴史文物館（ネオンの字がさすがに立派である）
- 紙製の人形（陶器のやう）（入口に統計箱、竹片を箱に）
- 石器 - 614年前石器。
- 骨貝、甲骨文字、酒器、水器、兵器、鉄器
- 革命文物
- 鴉片戦争 太平天国、（洪秀全、長い農民運動）15年もつづいたが革命は失敗した。
- 1905年広東人民反米斗争
- 辛亥革命
- 1919年 孫中山、海陸軍大統帥

○ 第一次国内革命戦争(1912~1927) 国共合作時代。

○ 省^{カンハン}港^{ホンゴン}大罷工 1925 6月19日。

一年以上つづき、20数万がつづいた。

香港は死の街になった。

蘇兆徴指導。

○ 農民講習所室長

○ 農民革命旗

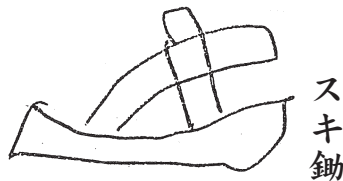


図3

○ 第二次国内革命戦争(1927-1936)

蒋介石裏切。国共合作くづれる。(共産党のみの運動となる)

○ 農民運動となる革命運動。安按豊処粵東蘇区(エトター・ソビエト地区)

○ 抗日戦争時期(1937—1945)

広東抗日戦争時期

在八年抗日戦争中、広東方面的情况。在広東大陸。一九三八年十月十二日、日寇從惠陽大亜湾登陸、前後只十天。就從国民党軍隊手中奪去了広州市及其外団県、從而給広東人民帰来了暗無天日的日子、……在海南島 一九三九年二月十日日寇侵略海南島、海南人民亦遭受了空前的災難、……、終於取得了這次民族解放戦争的偉大勝利

○ 解放戦争時期(1945-1949)

広東解放入城式

海南島解放(1951)

列寧(レーニン)

○ 文物宮の中を一巡する。ガンガン鉦を鳴らし、女優が喋つてゐる。粵劇舞台。映画館 運動場 いろいろなものがある。管理費として入場料^マ ^マ 錢をとるとのこと。バスに乗り、愛群にかへると十時。^{エツゲキ}

○ 沙面に行かふと思ひ、タクシーをきいてみると、みんな政府用になつてゐないとのこと。ふだんはあるのだが、メーデーが近づいて徴用みたやうになつてゐるらしい。仕方がないので歩く。丹野女史と通訳の^マ ^マ さん。近いと思つたのに意外に遠い。しかし、十分ほどだつた。昔、ここにはアメリカとフランスの租界があり、バリケード、トーチカがあり、歩哨がゐて、なかなか中に入れなかった。クレークを掘つて島にしてあるのだが、水が濁れてゐて、多くの民船がビツシリつまつて攔控してゐる。橋をわたる。暗くてよくわからない。奥には灯がたくさんソ連大使館があるとのことだがわからぬ。レーニン85年のためか、ロシヤの写真が橋畔に陣列。豊富な樹木。橋に門があることはある。鉦が鳴る。しめこまれてはたいへんなのであわててとびだす。三輪車(サンルン)を二台ひろつてかへ

る。涼しくてよい気持。通訳君が金はらつたのでいくらかわからぬ。

- 小林義雄氏に表の珠江べりを散歩してみなさいとすすめておいたら、パンパンにたくさん出あつたらしく、火野さんのいふとほりだと、帰つてから笑つてゐた。
- 中国政府から、一人頭50円（日本金7500円）の支給金を和田さんの部屋でうけとる。招待されたうへ、小使ひまでもとは、なんだかすまないやうだ。
- 愛群ホテル出発。駅に行くと、羅培元さんや作家の陳残雲さんなどが見送りに来てゐる。陳さんと握手すると、ぜひもう一度広東にといふやうに、指でフォームを指さす。カランカラン鉦が鳴り出す。昔の日本のステンショを思ひだした。五分前らしい。吉岡さん、代表挨拶、頼さん答へ、一同乗りこむ。粵漢線である。見残したところの多い広東へ心のこり。
- 廣州站（もと着いた駅）午後11時45分発。一等寝台車、青7号、朝田、松岡、中村三氏と同室。一等寝台など生れてはじめてである。松岡氏は田村泰次郎君と同室の親友とかで、いろいろな話をする。汽車はひどく揺れるが、疲れですく眠つた。

4月23日（粵漢線）広州→武昌

うすら寒い。あまり高い山はないが、起伏に富んだ高原地帯に行く。清澄な武水北江の流れ。にごつた赤い川ばかり見なれた眼に、中国のすんだ川が珍しい。日本のどこかのやうである。坪石^{ヘイセキ}駅。すばらしい奇岩の聳立。水成岩だがみあげる高さにある。これが坪石といふ岩らしく地質学権威早坂氏の解説をきく。この一帯広東からずつと、土が赤い。坪石をすぎると、広東省から湖南省に入るのである。宜章、郴、来陽……左手に見えて来る湘江の流れ、これも澄んでゐる。洞庭湖に住んでゐるのだが、湖は夜になるので見えぬだらう。

- 食堂で、朝食、昼食、話はずむ。亀田さんと翫右エ門さんのこと話す。かへりたがつてゐるが、日本では手ぐすね引いて待つてゐるので、簡単ではあるまいといふ。密入国と、北海道の赤ベラ事件、二度も無断で公演し、つかまると逃げてゐるし、官憲は恨み骨髓に撤してゐる。もう二年半になる。中国の芝居を勉強したり、日本の芝居の話をしたりしてゐるが、やはり役者は舞台に立つが本領といふ意見一致する。翫右エ門さんといつしよに、「戴冠式」や「パノラマ世界」などを読んだ由。「あの人形師はどうしてゐますか」「小島与一、その人の人形を郭沫若さんにさしあげようと思つて持つて来たんですよ。それがいまだにとどかず、ホンコンから、シンガポールなどに行つて、北京へ送つてもらふことにしてはゐるけれど、もう多分こわれてゐるでせう」ビール数杯。
- 四時から学習。食堂車の横の部屋で一時間ほど。インド諸国会議の感想。みんな熱心である。文学、美術、演劇、映画の話する。
- 窓の外の水田の中に円形がいくつもある。そこへコヤシ（堆肥）を入れておくものらしい。
- すれちがふ貨物列車。満載されてゐる兵隊。強さうな歴戦兵。復員で故郷へかへるらしい。珍しさうにこちらを見てゐるならんだ顔。頭髪をのばしてゐる者が多い。
- 夕食。

* 児童文学協会のこと 大□□の話

4月24日〔武漢〕(武昌、漢口、漢陽) ⑩

- 4時19分。武昌駅着。しかし二輛だけ切りはなし、7時まで寝かしてくれる。バスで渡船場へ。黄鹤楼。
- 揚子江を船で渡る。なつかしい長江。漢口へ。
- 江漢飯店。314号、坂本徳松氏と同室。
- 朝食。久しぶりのやうな洋食、ハムエッグス、卵3。
- 日本人を珍しがつてホテルの前に集まる市民たち。服装は一定されてみて、背広服などはどこにも見ることができない。
- 中山大通り。道路がきれいになつてみてチリが一つも落ちてゐない。ハナをかんだ紙もすてられない。

○ 解放大通り。中山公園。

*ホテルの場所-贖利街

- たくさん人民解放軍の若い兵隊。肩章なし、ゲートルなし。
- 漢水鉄橋 附近に自動車修理工場 ボーセキ工場。
- 鉄橋の入口に歩哨、鉄砲を横に。
- 橋上に動哨、背に眩い銃口を下に。
- 日曜なのか、川岸で芝居の歌、ドラの音。ラジオ。
- 予定は一年、去年の洪水にもかかはらず十一月と七日で完成。労働者の熱心、ソ連指導者の適切。360m、単線。
- ウスネヅミ色の鉄橋、にごつた流水、兩岸のジャンク、新しく建てられた建物、赤煉瓦 赤屋根。鉄橋の両側は人道道路。
- 特点——水が深く、流れ急。渇水期にやつた、冬。一番深いところ22m、水速毎秒12—18m。(これまで長かつたのは18mしかなかつた。) ソ連、ソ連技術水沈井戸 で困難を克服した。
- 大きな帆を張つた石船は下を通る。

二挺櫓を、四人でこいでゐる。(絵)

河底から4~6m 河底から上 29m

- 橋の全部の材料、山海関の橋梁工場がつくつたもの。鉄鋼も国産。
- 沿岸、赤土を船に積む仲仕たち、日本のとかはらない。
- 将来複線にするための張出橋脚。
- 見学者多数。
- 揚子江大鉄橋。汽車、自動車、二段

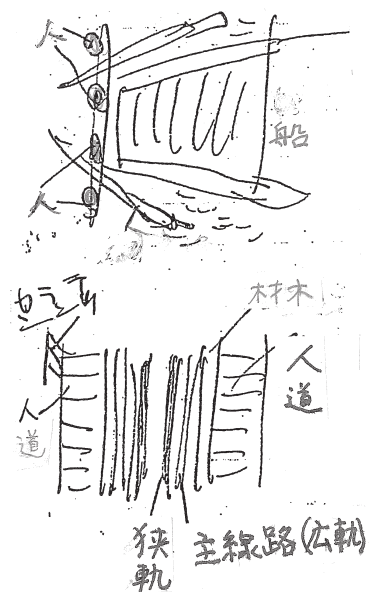


図4

武漢鉄橋工事 (地図つき)

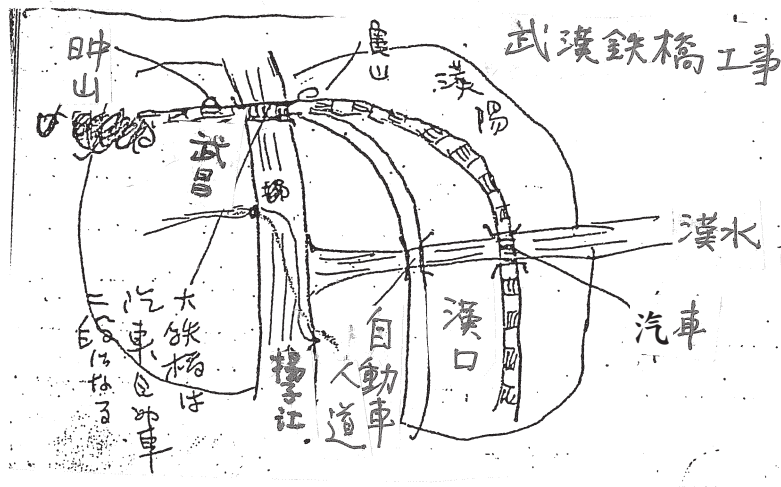


図5

漫画とその説明

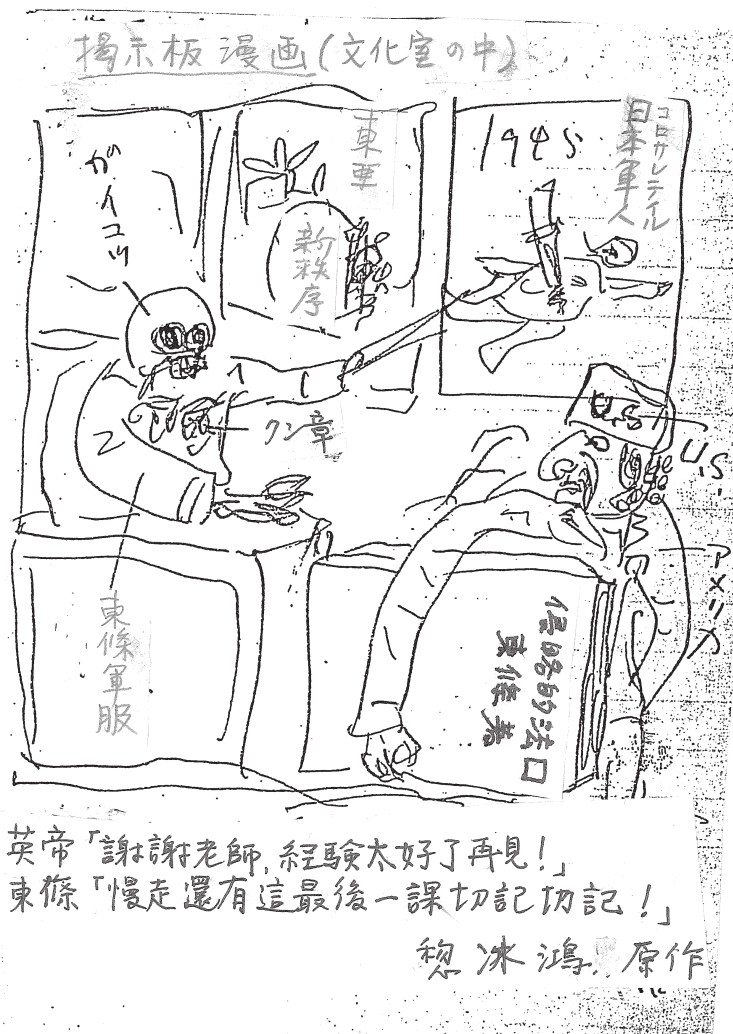


図6

- ◎ 工人文化宮(橋口) 入場料—一般とる、会員はタダ 十銭。
11666平方m、1950年—1951 完成
- 文藝庁 光栄榜 ○ 運動場(バスケットやつてゐる)
- 図書館 3万冊 200名 収容
- 「文学革命」鉄工、新世界、文芸報。
- 戯子彰(映画館) 今天夜曲 七時半開演
「漢王大破東海島」
- 漢水 流れがはげしいので、上る船、困難してゐるタキギを積んだ船ブツつかり、口論 下る舟早い。人道 コンクリート橋脚だけ出来てゐる。
- 自動車鉄橋。(日曜で仕事休み)
- 労働組合(タン)さん——武順から漢陽へ。北と南をレンケツ、揚子江大鉄橋につづく。330m、幅26m、自動車四台ならべ、三輪車、人道をふくむ。1954年10月30日起工、本年度完成計算。機械利用、コンクリートミキサー、一回1400リットル、生産力高い。重要な水上工事完成、予定より早くできる見込み。

- 材料をはこぶ民船(レール 鉄管)

長いレールを二隻にわたしてある。石船。

鉄道マーク



図7

- 三交替 怪我 非常に少い
安全生産、3m以上は安全帯。

ロゼット材との

- バスでかへる。広東でもさう思つたが、漢口にも當が見あたらぬ。昔はいたるところにこの當の文字が眼についた。亀田さんにきくと、質屋と高利貸は徹底的になくしたといふ。人民銀行、金融合作社、信用組合などができて、金のやりくりをうまくやつてゐるさうである。
- 昼食。豪華大菜。食べきれぬ。すこし食ひすぎのやうなのでひかへる。インド料理がひどかつたので、おいしすぎるのである。みなよく食べる。
- 一階に「奕棋室」「彈子室」(タマツキ。)がある。
-
- 二時集合。バスに乗る。ハイヤーが他に二台、老人、婦人はそちらに乗る。団長、副団長は優先。
- 紺色中国。にぎやかな街の人出、着物は紺一色、筒衣、服装の改革てつていしてゐる。昔風のもの全く見ない。支那服の華麗なものは日本のスーブニール店で売つて居り、アメ公が買つてゐる。苦笑。男も女も同じ紺衣。男女同じ色となると、他の色はおかしく、この紺が一番のやうだ。落ちついたよい色である。
- 船に乗る。揚子江をさかのぼる。多くの船、魚をとる漁師、四ツ手網、アミ、釣りなど。水上は写

真をとつていけないといはれる。漢水に入り、給水船に横づけ、上陸。

- 武漢国棉一廠。門前の堤防。洪水よけ。
- 劉錦堂氏（工場長）——（武漢第一棉紡織廠）
 - 1951年5月、測量設計 6月に起工。
 - 1952^マ月 工場完成、6月試運転。鑄型コンクリート建、天井屋、中空煉瓦（ブロック？）通風、暖房、冷房、労働者健康保護、托児所、鋪乳室、子弟学校、衛生室、浴室、理髮室、食堂 独身宿舎、家族村宿舎、幼稚園。三つの特長 ①測量設計をふくめてすべて中国の技術 ②機械は国産品、部分品は外国のがある。③労働者の95%は新しくよんで来た若い工人、18才位。
 - 生産、三交替、勤労時間7時間半、食事30分を入れて8時間。労働組合の方で文化学習、労働者の数 1500位 初級小学校、1—4年、高級小学校 5—6年、初級中学校程度のもある。
 - 文盲は一人もゐない。高級中学程度 新聞や本は読める。
 - 工人会 娯楽活動、ダンスパーティー、映画、バレーバスケット、演劇、などをやつてゐる。
 - 技術学習。
 - 生産状況——1952年6月操業の二年後、国家計画にもとづいてやる。年を追うて増える。はじめ工人、経験がなかつた。52年上半期、単位生産量、私営工場に追いつく。工人の勉強と自覚による。生産水準が高まるといふことと、工人の福祉増進とが平行することを工人たちがよく知つてゐる。1952年、綿の浪費がひどかつたのを工人たちが自発的に改革した。
 - 90%工人、中に住む。給料、生理休暇、労働保険といふ。○ 独身宿舎、タダ。国家指定以外の福祉、労働組合でやる。工場長資金、家の貧しい子に救済の意味でやる。管理方針、——長責任制。生産区地域管理制、現場主任は全部責任を果す。
 - 生産指導——計画管理、中心は操業計画。生産品の質、量、材料の取扱等、出現。
 - 工人 男子800。女子1600。
 - 工人会に参加してゐない者少数。（若いため、□□のできるのもおそかつた）すぐに入れるものではなく、紹介者、思想の進歩如何。（日本はだれでも入れる、能力、思想などそつちのけ）
 - 給料50円位（一ヶ月）日本金で7500円、最低賃金30円、最高60—70円、一定しない、生産による。
 - スピンドル 5万、21番手——22番手。
(維)
- 生産者 1缶、1時間 28~29キログラム。
- 工人は経営と企業とに関与できる。労働組合は三ヶ月に一回会合をひらき、工場に意見を述べる。国家計画完成。
- 工人会学習、政治学習、文化学習。
- 業務学習。
- 経営協議会。○全国的紡績工人会で契約等検討、正式決定。工場と工人。
- 工場見学することになり、マスクを渡される。いろいろな結びかたの連中。◎工場
- 寄宿舎（寮）
- 工場へ入る 大洪水をふせぎとめた。

- 午後五時半、ふたたび船へ。昨年六月から十月までの大洪水のあと、兩岸にさんたん。工場の門に30mまで水が来た印がつけあり、道路上には泥や石があがつたまま、対岸は大規模な堤防護岸工事、大勢の人たちが働いてゐる。船は漢水を出て、左へ、揚子江本流。右手に武昌の黄鶴楼。船や工場のエントツの煙がマツスグにあがつてゐる。風のない盆地、夏は有名にあつい漢口。「長江に三つのストーヴがある。南京、漢口、重慶」小学校の生徒が図画に、みんな煙をまつすぐにかき、昔はインド人の巡査(watch man)がインドに避暑にかへつた。
- 六時、夕食。まだ昼飯が残つてゐるやうに腹がへらない。李徳純さんがしきりにビールをすすめる。夜は芝居見物の予定。7時5分前にホテル前に集合、出発。
- 武漢楚劇院。
武漢楚劇団 上演節目 貼付。



図8

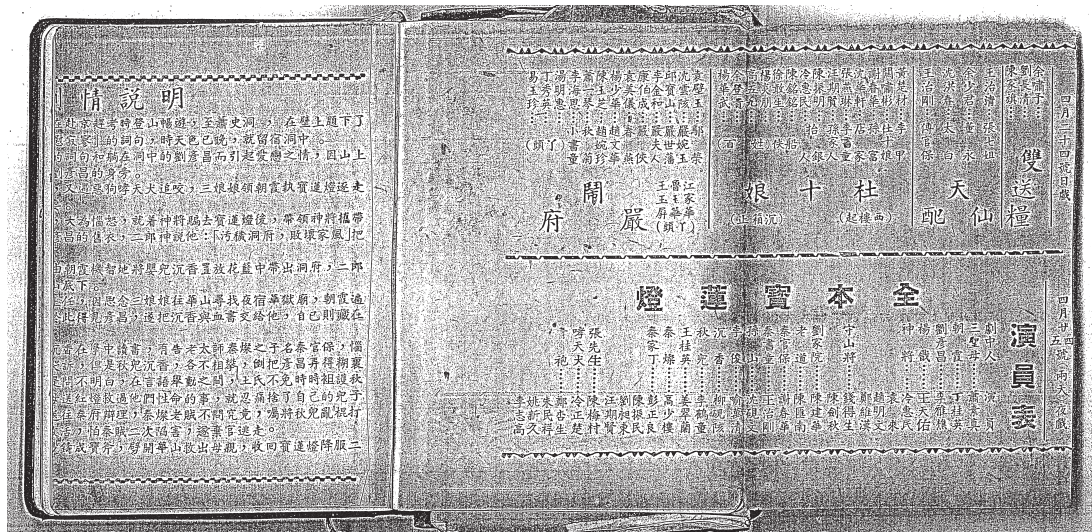


図9

*はふり落つる涙は袖をぬらす

4月25日（漢口）④

- バスに入らうと思つたら、水。身体を洗つたがふるえあがつた。それでなくても今日は寒い。朝食のオカユがおいしい。8時半、出発。道がわるい。楊柳いたるところに残つてゐる。仁丹。人丹。
- ◎ 中央人民政府鉄道部
機車車輛修理工廠管理局 「江岸機車車輛修理工廠」
- 近所の部落からたくさん子供が珍しさうに集つて来る。入口をはいり、機関車工場の騒音の中を抜けて、事務所へ行く。話してくれる人。
- 二七大ストライキ。——京漢線の労働者は帝国主義者と白人の統制下で四十八年間も苦しんだ。1923年、中共の指導の下に、11月15日、(?) 2月1日組合結成、総工会、超軽玄、(欽短方) その他が呉佩孚に鎮圧を依頼した。1月28日、^{ママ}定州で会議、全体長官が禁止、軍から岳楊へ来いといふ命令、圧力で定州会議を(文献によつてしらべること)禁止したが、^{ママ}定州で1月27日、会議をひらいた。2月1日呉佩孚、軍隊で会場包囲したが、武器をもたず入り込み総工会を成立させた。労働省に不買、不宿の命出した。自由民権を守るため工場にかへり、2月4日ストライキに入る。1日から7日まで、デモ、対抗圧力排除、7日午後5時、1千名の軍隊(二營)漢口労働組合分会包囲、流血、32名死、100負傷、大勢を拉致、仕事をしろと威嚇、指導者を斬り。群集に発砲、林祥謙殺さる。
(「二七」は二月七日 惨夢の日。)
- 張士漠さんと呉東山さんの二人、当時の二七ストに参加した工員。みんな拍手して迎へる。よいオツさん。
- 解放後、1949、は1ヶ月四台修理しかできなかつたが今年は10台できる。毎年、国家計画を完成、先進的労働者85名、大洪水と戦つた45名もの模範工員。1953—54年に賞をもらつた。
- 生活。解放後初期から80%上昇、労働保険労働保護 1951—旧幣1万9千円、1954—貨幣13万円
(もと1億9千、今は13億) (1年間)
- 生産奨励、合理化奨励、競争奨励、等。
- 文化班、技術班、政治班、事業班、四つ。文藝活動——毎週、映画、ダンス、劇。スポーツ(毎日)宿舎、風呂場、その他厚生設備。五・一メーデーと台湾解放のため、生産精励。—などの話。
- 中の写真はいけなしいはれてゐたが老闘士をうつすことは許可される。照れくささうな張さんと呉さん。みんなが寄つてたかつてうつしたりいつしょにうつつたり、大人気。をかしさうに、うれしさうにしづかな笑みをたたへる。
- 工場見学。機関車、しきりに汽笛を鳴らしてゐる。ごうごうたる工場内で、熱心にはたらく人達。
- ハリ紙「反対嬌傲自満敵情緒、云々」大勢の工員の中には意識ひくく、革命の意義を解しない者もある由。
- スエーデン、その他東欧の機械類の中に、日本のも点々とある。住友、その他。
- バスで工場を出て、街に行く。中国鉄路工会漢口分区委員会
- 工人俱樂部(右書きにしてある。方々に右書きと左書き、まだよく統一されてゐない)
- 二七事件紀念館。「中国鉄路工人「二七」闘争史画」数十枚の写真と絵。生々しい闘争の跡。
- 入口に「二七老工人休息室」とかいてある。老闘士の張さんと呉さんとが説明をしてくれる。今は

- どんな役目をしてゐるのであらうか。好々爺である。八幡製鉄にゐる宿老のやうなものかも知れない。
- 江岸駅。二七事件^マ記念の地。構内には石炭がたくさん貯蓄してある。アンペラ小屋にゐる中国人たち。線路わきに、なんの標識もしてない林祥謙の殺された場所がある。解放後、二七ストを弾圧、発砲した元兇を、人民裁判にかけ、同じこの場所で銃殺したとのこと。構内のいたるところにある貼り紙、すべて建設意欲をかきたてるもの。
 - 「反対巴黎協定武装西独反対復活日本軍国主義」(駅構内の小屋の壁にはつてあつたポスターの文句)
 - 附近の家は貧しく、大勢の子供たち珍しさうに出て来る。みんなに別れ、帰館。
 - 昼食。
 - 人民体育场(立派)へんぼんたる旗の列。「向捷克斯洛伐克共和国保加利亚人民共和国運動員致敬！」
 - 2時 入場式。拍手。中国、ブルガリヤ、チェコスロバキヤ三国選手。小さい中国選手。青ビロード服、チェッコだけ、エビ茶服。
 - 挨拶。女の子たち、花束を客の選手団に贈呈、選手たち一人一人、観客席へ花を投げこむ。選手退場する。ポールを立て、網を張つて、試合場をつくる。せまい感じ。はじまつて見ると一組6人(普通は9人)簡易化されたのかも知れない。
- ◎ 保加利亚 対 武漢連隊
- どちらも女選手。ブルガリヤの女選手のたくましい身体、試合服になると、ストリップみたいである。気の毒なほど、小さい中国選手、健斗したけれども、問題にならぬ。スマツシユするのに、ネットの高さが決定的。5回勝負、三回ストレートでまける。
 - 捷克斯洛伐克 対 武漢連隊
(軍隊中央之家)
15×2 15×1 15×4 (これハストレートで中国軍の負け)
中国選手もなかなか上手であるがなんといつても体力の差は仕方がない。どちらも兵隊。まだ試合があるらしかつたが、かへることにする。曇り空から雨パラパラ、寒い。漢口の街が道路がきれいになつてゐるのにはおどろいたが、なんだか全体に活気がなく、街は色彩を失つて荒廃してゐる印象がした。そんな筈はないから、錯覚であらう。
 - 全体会議(6時) 5時半からがやつぱり30分おくれる。
 - 予定が一日延びるとのこと。連結する一等寝台車が明日都合つかぬため、漢口出発は27日。
 - 和田さん、全員が平和委員といふことにした方が北京に行つてから都合がよいと提案したが保留。畑中さんは、できるだけ各人詳しく肩書や平和運動のことをかいたがよいといふ。こつちは「作家」だけ。
- ◎ 漢口平和委員会の招待。第二章。
- 杜子才氏(平和委員会書記長)
 - 坂本さんとぶらりと街に出てみる。
- * 芝居の話
* 事務宴会

^マ2月26日(漢口) ㊦

- 雨降つてゐる。熱湯が出るのでバスに入る。
- 航空便が出せるとのこと。封書54銭（フツウ22銭）ハガキ45銭（フツウ13銭）。原稿送らうと思ふけれども書く間がない。約束すこしも実行できず閉口。
- 江岸につく。雨の中でせつせと堤防工事に働いてゐる労働者たち。煉瓦を積んだり運んだりする女仲仕。雨期までに完成を急いでゐるのであらう。
- 揚子江を渡る。黄色い水、茶色つばい空、海のやうに煙るひろい川。小蒸気船、ロシヤ人が乗つてゐる。ロシヤ語を勉強してゐる富永君、畑中氏は話せると見えて、この船の日本人はアジア諸国会議に出席した代表だなどと説明してゐる。にぎやかな談笑。まもなく武昌につく。四台の自動車とバス。どんどん郊外へ行く。悪い道、汚い家、貧しい中国人、豚、水牛。田圃のいたるところにある土饅頭の墓。武漢大学の前を通りすぎる。バスは「革命廢殘軍人療養院」のもの。

● 華中工科大学

- ひろびろとした荒野の中に立つ新築中の学校。（話してくれる人）
- 1953年完成、国家第一次五ヶ年計画にもとづく。工業建設人材養成、武漢、湖南、南昌、廣西の四大学の機械学、電気学科から成り立つたもの。
- 昔は卒業200名位、解放後、今年は1000名位卒業。建設と教育、荒野原に近代建築、ここに来て8ヶ月、バラックで勉強してゐた。まだ周囲の道路などわるい。ホソーなし。四学科、十三科目。学費無料一切国家負担。
 - ① 機械製造学科（1400名学生 専攻4年—専修2年）
 - ② 内機械、自動車学科（800名 専攻4年—専修2年）
 - ③ 電力学科、（1000名 専攻4年、 専修2年）
 - ④ 動力学科 400名 水力 火力 4年

夏休み頃後、二つの専攻科が設けられる

- 政治経済学もやる。
- 三種—機械、動力、金属冶金。
- 労働者農民の学生を養成するため、労働速成中学、年300、将来は1600名位に。約15%。
- 教員370名、（教授、助教授、講師、別滿任意）
- 学生3600（女生徒400名）旧大学では女の工科生は少かつた。今年夏休み卒業1000名、次学期に入れる1700名。ここ一年□は10000名以上に増やす予定、党と政府はこの学校に莫大な経費を出し、350万円を新設備にかけてゐる。実験22ある物理、化学、光学技術、測量、金総、X光線、鋳物、セツサク錐盤、高圧電気、水光、光等。二月新しい実験室にうつされた。実習工場、面積6500平方m—毎週4000名学生実習。
- 地形—喻家山、武昌から17キロ、三平方キロ、東西2キロ、南北1キロ、一年半前まで荒野、107棟、94000平方m、三つの教室回廊、四棟の実験室。一棟の工場、宿舎、将来12万平方m。
- 卒業生は一人のこらず国家の建設陣へ。就職運動などの心配はない。ひたすら技術錬磨。武漢大学26年間に建てたものよりも大きい。発展中、9年未完成するもの三分、一通らず。欠点たくさんあるので、意見を聞かせて欲しい。（拍手）

- 学校内見学。実習工場へ行く。きこえて来るモーターやベルトの音。
 - 鍛工車間 - かじや。
 - 鉗工車間 (車間一現場)
 - 機工車間、たくさんの機械モーター 小さい女学生、大きなキカイ。アメリカのキカイ、カナダの解放前もある。国産もある。
 - 模工車間 一年生実験、木工
 - 鋳工車間 - 原始的ヤリカタ (またバスで、雨の中を)
 - 図書館。規模の大きなもの、四階建て、建設中、赤土の泥だらけ靴でみんなあがる。ミガキだしをしてきれいな階段や床にみんなあがるので、職人、妙な顔してゐる。バスへ。
 - 東湖 (一時)
 - 武漢大学 (三時)
 - 漢徳培 (教務主任? 法律)
 - 唐東彌 (歴史、中国近代学)
 - 霊
 - (蘇埼さん通訳) 話一前身は国家武昌師範、1913年成立、その後、武昌師範大学、中山大学、1928年はじめて武漢大学の名。1949年5月、解放後人民大学、改革、1951年。政治学習、52年から学部、学課の調整、工学部、医学部、農学部を独立、中国語文学、ロシヤ文学、歴史、経済、法律、物理、化学、生物、四年卒業、図書館学は2年、来年から三年になる。教研組36、教員320名、教授87、副39、講師教員61、助教授133人。学生、解放前1000、現在2400名、解放前は地主、官僚、ブルジョアジー、今は労働者農民職員の子弟、33%を占めてゐる。
- * 抗米按朝運動にも、抗抜的。
- 附属労働達成中学、卒業後大学へ。生徒300名。附属小学校700名。改革に当つて困難、教員不足、テキスト不充分、新教学方法に馴れてゐない。積極的に努力、克服の意慾、発展が早く、建築物不足、新校舎241494、6平方m、(教員宿舎を含む) 図書館26万しかなかつたが、今は52万冊。社会政治運動に参加、土地改革に関して300名、農村へ行き封建性とたたかつた。1954年夏、武漢洪水のときも参加。洪水突貫20988回、99人功績を立てた。文化活動、人格養成、人民奉仕の崇高な品質、健康。学生無料、貧学生には手当。卒業後、政府の必要、個人の希望にもとづき適当な職場へ。解放後3130名卒業。
 - 予算のこときく安倍女史。参議院議員的。
 - 法律のこときく牧之内さん。
 - 学生は地主出身、民族ブルジョアジーの子弟は居る。(老地主もブルジョアジーもゐないが)
 - 試験をやる。全国統一。学費無料。貧家庭の学生には教科書費その他の援助。家庭がやつて行けないとき適当に補助。
 - 秋元さん、統一試験のこときく。
 - 早坂さん、予算計画のこときく。
 - 富永さん、行政、教職員組合、ソ連との関係のこときく。

- 中村さん、戸畑議員調で、なにかきく。
- 事務室を出る。雨。すぐ前に図書館の建物。古雅である。近いけれどもバスでそこまで行く。
- 閲覧室の学生たち。中国雑誌類に一冊だけまじってある「文学の友」。標本室。
- 中国特産物。
- ワニ（揚子江、^{アンキ}安徽、湖北省アタリ。）
- 鱒魚。（48尺位）アメリカ、ミシシッピ州に住むのが居る。揚子江。淡水白鯨（上海—湖北）
- 学生が集めたといふたくさんの標本。物理学や化学教室、実験室。

*（ホテルの前 解放電影院）

- 帰る石段の上で、蘇さんに、ここは武昌からどつちの方角に当つてるんですときくと、蘇嬢、そばにゐた学生にきく。笑いながら「答がふるつてますよ。こつちから太陽があがり、こつちに沈みます。武昌は太陽は沈む方、ですつて」疲れたのか、彼女の顔が青い。すこし重労働だ。
- 一番下の石段に、五六條、ミミズ型の溝が彫つてある。1947年6月1日、反帝運動をやる学生を国民党の軍隊が来て襲撃、三人の学生殺された。その血のあとといふ。赤い血の流れるのが見える思ひ。
- 学校側の人たちに別れて出発。学生たちもいつしよにはげしい拍手。もう五時半、渡船場に到着、揚子江を渡る。宿にかへつたのは六時半。7時、夕食。どうも腹がはつて食へぬ。
- 8時15分、映画見物に出発。あまり遠くない映画館（^マ）入れ替え時間。「山間鈴響馬幣末」、あまりたわいなのですんでからアツケにとられた。しかし、考へてみれば、これは宣伝啓蒙映画だから、現在の中国としてはこれでよいのであらう。初歩的すぎるが、観衆は熱狂ししきりに拍手する。かういふ映画ばかりではあるまい。通訳は王保祥君、ラヴシーンのときには照れてゐる。終ると、観衆はまるで消えうせたやうに迅速にゐなくなつてしまつた。10時。「混血児」の予告ポスターが出てゐる。バスでかへる。バスに入る。



図10

- 今夜のうちに荷物を出しておいてくれとのこと。赤土でよごれた靴をボーイが持つて行つた。

財産計算。

1. 香港ドル231.5→93×99/2円 人民銀行円
2. 下附金 →50円

米ドル→200 143円(日本金 21450円)

(映画館出るとき、秋元さん「タダだらうか」牧之内さん「きまつてるよ。君はもうすこし社会主義を勉強しなさいかんよ」「自由党やめるかな」)

4月27日(漢口→京漢線)

- 雨が降つてゐる。食事は八時半。すこし早目に下に降り、閲覧室に入る。本も雑誌もすべて一色。ソ連の雑誌たくさん。
- 松田解子著全術関衝訳「地底下の人間」世界文学名著訳叢 上海泥土社
- 屠格涅夫選集四「父與子」正全訳
- M. 蕭洛霍夫著 全人訳「静々の頓河」上海光明書房
(これを北京で買つて、原君に送つてあげよう)
- 9時20分集合、出発。車中で閲歴書。
(常久—中国鉄道技修といふことわかる)
- 母子車
- * (常久—中国鉄道技修といふことわかる)
- 夕食に出た強い酒をのみすぎたか、女性群、四人とも早くからのびてしまつたので、バンドン会議の学習は明朝といふことになる。朝田氏が班長の吉田君に、少し気をつけるやうにいはんとあかんといつてゐる。
- 黄河の鉄橋は夜中に通つてしまつた。
- 鈴木さん、もう病気といふほどのこともないらしい。
- 鄭州—10.47分 早目に寝る。

4月28日(京漢線→北京)

- 寒くて眼がさめた。クサメがしきりに出る。表はどんよりと曇つた天気。
- 吉岡さんは窓の外を見てはしきりに農業技術の観察。河南のときは、中国はおくれるなア、といつてゐたが、河北に入ると、こりやア日本より進んどるといふ。望遠鏡を借りて仔細に点検。熱心だ。
- 早坂さんは地質について説明する。
- 李さんから、新中国地図をもらふ。漢口市内で地図類を探したが、どこにも見当らなかつた。市内地図もない。地図には朝鮮全部が共和国になつて居り、台湾も中共の一行政区にふくまれてゐる。
- 朝食。オカユがおいしい。風邪気味の人が多いらしい。

- 亀田さん、「人民日報」を持つて来て、メーデーのスローガンや重要記事をよんでくれる。六十二のスローガンのうち、十六番目に日本。次はドイツ。徳永直の「五個碟子」といふ文章のつてゐる。中国滞在一ヶ月、かへるときの感想らしく、父が日露戦争に輜重兵で出征、ひどい苦勞ををしたのに、一枚の従軍記念章と、五つのサカヅキをもらつた話をかいてゐる。
 - 石家莊。午前9時40分。大きな駅。「老篤眼薬」の残壁。
 - 朝食。
 - バンドン会議（アジア・アフリカの会ギ）について、学習。食堂で。周総理の演説を王君が翻訳しようとするが、ひつかかるので蘇嬢がかはる。李君も会議の決議文をよみかけて、やつぱり蘇さんの応援を得る。日本語ができるだけでなく、聡明ですぐれた女性だ。あまり健康さうでないのが気になる。
 - 自歴書みたいなものを中国側へ出すといふ事で、みんなかいてゐるが、閉口。作家とだけがかいておいたら、中原君は、火野さんらしくていいかも知れんといつたが、近藤さんが、もうすこしかかねばいけません、沖縄に行つたことなどぜひかくべきだといふ。気恥かしさと、或る自嘲を感じながら、昭和六年洞海湾ゼネストや、七年タイホ、その他のことなどかく。最後に主な著書。中原君の部屋に持つて行き、他の人を見せてもらふと、一杯、その履歴がかいてある。えらい人たちはばかりである。まだ、同行の人たちのことをおたがひに知らないので、これを廻覧するとよいと話す。
 - 昼食。最後のビール。この食堂車は我々一行のためわざわざ広東から、揚子江をわたつて来てくれた由。ボーイにみんな礼をのべると、妙に照れてゐる。
 - 安縣
 - 保定（12、43）大きな町。その昔は日本ではよく知られた名。このあたりから戦争の発祥地になるのである。牟田口将軍がここから、インパールまで転戦したのであつた。十年後の複雑な感想。楊柳と騾馬（ロバと馬をかけあはせると、ラバができるが、一代きりで、□□かへり）
 - 長辛店。すこし行くと、盧溝橋見えて来る。二つの川と二つの橋、午前は鉄橋、その先のマルコポーロ橋、この橋のうへに立つたところがある。見おぼえのある豊台の城壁。一文字山はどうなつたかしらん。民家の壁にのこつてゐる「仁丹」いくつか。
 - えんえんたる外城。麦畑と楊柳。ほこりつぼい道と家。汽車、城内に入る。はるかに見える紫禁城、天壇、前門はどれかわからない。河壁を利用した長城。石炭の山。野菜畑。（京都の大根、その他、日本の種多しとのこと。）
 - 北京
- *夜、散歩、花火、近藤氏「銀座ばなし」
- 新僑飯店
 - 翫右衛門さんと散歩。ホコリ。月餅。近藤さん「銀座を歩くんですか。不愉快ぢやないですか」
- 「美国的侵略武装 力量必須從台湾撤出去！」ホテル西面の文字
- 北京市地図
- 新僑飯店、昔、外国領事館のあつたところ、□私□□

4月29日(北京)

- 朝食
- 9時、全体会議。①ホンコンビザ件。②市内見物、工作員が案内するので、四五人、組になること、車を出してくれる。③日程、はじめ二週間といふことであつたので、すこし延ばしてもらふやう頼むこと。早くかへりたい人(中村氏は十一日に東京に着きたい、永瀬さんもいつしよ)朝鮮に廻りたい人、その他いろいろ。畑中さんから報告、朝鮮から招待されてゐるのは、帆足計、来馬卓造、木下順二、火野、畑中と名を発表する。議長泊尾君、テキパキ処理するが、例によつてゴジヤゴジヤ。
- ソヴェート行の件。424号で協議。鈴木、近藤、松本、家永。話してゐると、中国側の人、打合に来てゐるといふことで、二階の広間に行く。流暢な日本語通訳さん。(10時20分)平和委員会事務局長(予定)

-
- 午後、市内見物。夜チェッコの列前。
 - 30日午前午後 万寿山、夜□迎宴 5月1日、メーデー招待。
 - ① ◎文学作家座談会、科学、労働組合、婦人問題、法政、経済建設、農業、教育、宗教等の座談会。(参加の人数をきめること) ○具体的に聞きたい内容を申し出ること
 - ② ◎参観 合作社、監獄、托児所、官庁、ダム、北京大学、人民大学、物理、農業研究所、農場、等
 - ③ ◎逢ひたい人は連絡する。北京5月10日。11日から、天津、南京、上海、鞍山等、5月末帰国。しかし、意見があつたら、自分の家へかへつたつもりで申し出て下さい(拍手)威集光さんまで。
 - 中国側の人退席し、こちらだけ、ふたたび全体会議。
 - 戦犯収容所へ行くこと(牧の内氏提案)慎重に。
 - インド会議報告文、文化部門起草。委員長、小林義雄。
 - 文学者座談会。

丹野節子、坂本徳松、火野。②近藤忠義。②永瀬清子。

*座談会別室

(作家 文学者婦人問題) —火野世話人

逢ひたい人

(郭沫若先生) 劇団の方
(老 舍先生)
(丁 玲先生)

- ホテルの売店。絵ハガキの外 白石老人の画集を買ふ。闊達ないい絵、よい印刷、12.50。

*説明しない建物

- 市内見物(三時、ホテル出発)
- 東単(昨夜、歩いたところ)
- 王府井。○故宮東華門(博物院)の方向にある大建築(なんの建物か、はつきりわからない、と王君いふ)
- 置山 ○フロール

- 北海公園 ○ 婦人運動員来る。
- 文子の家の附近？
- 西直門——新開道（城壁を切りひらく）
- 城外へ。俳優学校。（右） 電影学校、郵電学校、師範大学、大きな託児所
- 法政大学。北京医学院。
- 古城軍一水、成。
- 航空学院 鋼鉄、地質、鉄工業 学院。

北京西北部 文化区、学校地帯

- 林学院、地質学院、石油学院……建設中のもの多し。
バス降りて説明きく。 ○ 建築中の大学十一、研究キカン有る。
- 昔の大学があつた。土地が高い、風致区に近い、相互研究の便。4000ヘクタール餘、城内の2 / 3の大きさ。15万—20万の学生入れる見込み。五ヶ年計画の一部分、五年計画、七年後には全部完成。100万平方m建坪。一枚あたり学生54—84、師範10000、今の建物わりに低いが、将来は高層建築
- 福利施設もたてる。建設のため農民庶民を別地区に家を建ててやつて移動させた。農民は農村へ、建設に従事する者は随時平家建てて協力、前は荒地、下水の設備、すでにできた、(学校—単科大学)
- 「慶祝五一」の赤いアーチ。中国地震がない。
- また、バスへ。精華工業大学。
- 農民のリンジ住宅、リップ。
- 北京大学。○ リンゴ畑の白い花。水塔。 ○ 「もとの燕京大学」
- アカシヤ ポプラ並木新道。万寿山へ行く道、楊柳並木。
- 人民大学。
- 兵隊を積んだトラック。
- 迎賓館 ○ 工学院、気象学院 ○ 中央民族学院（少数民族人材） ○ 植物、昆虫研究所。
- 富永氏「スゲエナア、できあがったら」
- 牧ノ内氏「世界の文化の中心はペキンにうつるね」
- チェコスロバキア展覧会。
- 宰城門—前の門はとざし、西方にひろい道路

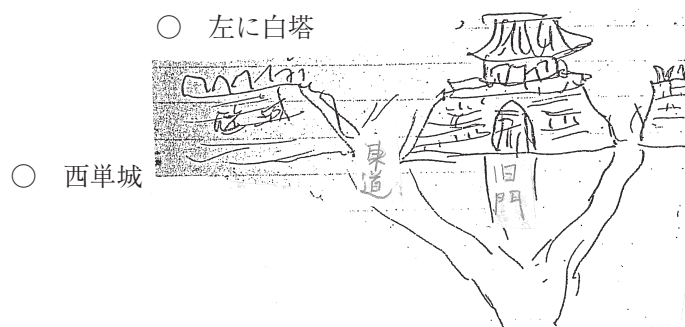


図11

(サカサにかいてある 左頁に)

- 「前方は宣武門とおつしゃいます」王君。
- 西単、電車、商店街
- 大道、西長安街、今年はるから左側に電車
- 国務院、新華門、右側総工会
- 天安門メーデー広場—紫禁城。
- 北京飯店、左半分、タテマシ
- リンジ便所の列。
- 市民の群—紺の流れ。

*車馬ノ札メ
(この頁が右後)

- 一度ホテルにかへり、またバスで本屋に行く者だけ十人ほど、王府井につれて行つてくれる。街はにぎやかである。
- 新華書店。「紅樓夢」論争の本、新中国の文学解説の外、広東できいた「高玉宝」を買ふ。写真を見るときとりつばな兵隊。無学な貧農ときいてゐたので、どんな朴納な兵隊かと思つてゐたら、貴公子然としてゐる。
- 国際書店の方に行つてみると、どこの国の本でもある。日本文学もある。しかし、どこの本屋もすべて傾向が一色に塗りつぶされてゐる。
- ホテルにかへると、風邪気味で休んでゐた吉田君の置手紙「朝鮮大使館から手紙、「朝鮮行、希望あれば連絡ありたし」とのこと。ソビエト行のこと、印度引つかへし、すべてスケジュールがこわれ、ゴチャゴチャになつて見当がつかなくなつた。どうしたらよいか。
- 六時、夕食。
- 天橋劇場

4月30日(北京) ㊥

- ハガキ三枚(女房、女史、寒吉)かき、航宅便で、出す。入口で、受けつけてくれる。一枚45銭、十日以上かかるとのこと。香港経由。普通でやると一ヶ月以上。
- 九時半出発。亀田さんが、いろいろ話があるんでせうといひ、翫右衛門さんと近藤さんと三人、別にハイヤーを提供してくれる。いろいろ話す。歌舞伎が中国に來れなくなつたのは、政府が人数が多いなどをいつたこともあるが、中に入つた興業係の問題、猿之助では日本歌舞伎代表といへないといふ説もあつたことなど。しかし、秋にはなんとかして送るやう努力中と近藤さんいふ。近世演劇を研究してゐるとかで、よく芝居を見てゐる。前進座に翫右衛門さんがゐないのは齒が欠けたと同じ故、ぜひ帰るやう話す。福岡公演のうち、調右衛門さんが楽屋でたふれたこと、長十郎さんの松王丸。国太郎一座の不入りを取りかへした話など。豊後浄瑠璃の思ひ出も出る。美しい満寿山見えて来る。40分ほど。
- * (メーデーにつき、一日 二日は多いといふハリダシがしてある。紅紙に墨字で)
- 満寿山。頤和宮の仁寿門(漢語)
銅狻猊(面白い銅獸)仁寿殿。

- 最近ぬりかはたものらしい。
- ゼイタク。ゴーカのあと。(タダマイルを見て出す。女の地位。)
- 塗るかへ中、職工宿舎がある。
- スホウの花。一つのだけ笑つてゐる牡丹。
- 閱覧站—無人管理。「人民文学」その他雑誌。
- 諧趣園。○松、杉、なにかわらぬ白い花。
- 涵遠堂 西太后魚釣りした池。
- 甌右衛門さんと亀田さんは、客迎へに去る。
- 景福閣(食事したところ)休憩、毛主席、周首相等、四枚の字典
- 牧之内氏、王君に「北京は広い都、あの水平線から先はどこですか」「火野さん、材料がだいぶんできたでせう?」返事ができない。
- 沸香閣 そびえ立つ。(六角塔)
- 排雲殿。見物大勢。
- 湖辺に出る。長い迴廊。
- 聽鸞館—ここは西太后の乗つたといふ車があつたと思ふがない。舞台になつてゐるといふ。ときどきなにかやるのであらう。
- 昼食。サボテンの花。外国人客、別のテーブルで葡萄酒をのんでゐる。
- 石船—西康省、の娘たち、少数民族、(民族学院生徒)チベット。
- 船で、昆明湖に出る。三隻。ミカン。楊柳の並木。西湖を模して作つたといふが、たしかに西湖を思ひだす。するやかな水棹の音。しづかな湖面。のどか。鳥の声。美しい萬寿山。太平の逸民みたい。
- 頤和園の周囲16華里(2華里—8/キロ)湖のヒロサ22044公畝(中国1畝—日本6畝)
- 泳いでゐる者。浮かんでゐる船。
- かすむ玉泉山の塔。大塔と、右に小塔。
- 音もなくすすむ船。なんの音もなくなる瞬間。
- ミカンの皮を湖にすてる秋元さん。
- 二時十五分、岸にあがる。のんびりしてしまつた。
- 休憩。サイダー(22箋)まづい。室内に台湾開放のポスターがたくさん。あらゆる場所で台湾開放問題を重点的にやつてゐるやうである。蔣匪。
- バスでかへる。
- カササギと、高い木の上の巢。他の鳥があまり見えぬ。
- メーデーの準備着々とすすんでゐる。花を積んだトラックに、うしろからぶつかりさうになる。
- 関鑑子さん、歌のけいこ。
- 前の建物、昨日は右から「中国人民」を見て夕方かへたら、「一定要解放台湾」がくつついてゐた。ところが、今見ると、右書か左書に改まつてゐる。今日も一ヶ所。「慶祝五一」が右になつてゐたところがあつた。街の飾はみな右書である。
- 招待状。国の名がむづかしい。皆と話あつてわかる。丹麦(デンマーク)約旦(ヨルダン)叙利亞

(シリヤ) 新西蘭(ニュージーランド) 黎巴嫩(レバノン) 等。

- 6時半ホテル出発。秋元さんがゐない。女性群はみんな着物。他国の客と同じホテルなので、玄関でいっしょになる。最後のバス。秋元さんいくら探してもゐないので出る。北京飯店にすぐ着く。ホテルも街もイルミネーション。このホテルに半月ほど滞在したことがある。昭和十六年九月と、十九年十一月と二度。檣橋渡時代。七階の食堂へ。第五卓に名がかいてある。全部で十卓ほど。
- 席にゐる中国側の人は平和委員会の于さん、詩人の朱さん、赤十字会の趙さん、この人は去年李徳全さんと日本へ来た人、一高に学んだとかで日本語がうまい。こつちは丹野、鈴木、近藤、空席は秋元さんのもの。宴は副主席陳叔通さんの挨拶ではじまる。長髪の老人。吉岡さん挨拶。シリヤ代表、レバノン、ヨルダンのアラブ民族を代表して挨拶。デンマーク代表「アンデルセンのお伽の国に来たやうな気がする」ニュージーランド、揚子江と洪水の話。秋元さん来る。于さんは早稲田経済科出身とのこと。話はずみ、卓なごやかになる。「みなさん、秋元医者さんがついて居られるので安心ですね」近藤さん「婦人科で、三度ほど病人が出ましたが、役に立ちませんでした」日本に行きたいといふ人たち、秋元さん「日本に行つてもつまりませんよ、こんなふんいきがないから」鈴木さん「プシン、プシン」自分もおどろいて「ちやんとありますから、ぜひいらつしやい」老酒久しぶり、おいしい。乾盃々々で少し酔ふ。畑中さん紹介し竹中君ヴァイオリンひく。「荒城の月」はらはらする。外国の人たちの前で披露できるものではない。メインテーブルには、亀田、中村、両氏もゐた。于さんが「作家の人はみな髪をのばしてゐます」「いえ、私のは不精なんです。二十年来、床屋に行つたことがあります」「節約ですね」「長くなると、自分でうしろをハサミで切るんです」朱さん笑つて「それはいいですね、僕もまねるかな」9時半散会。
- いつたん新橋ホテルにかへつてから、吉田君と二人、夜の街に出る。三輪車、天安門まで三十銭。イルミネーションで美しい建物。天安門の城壁に「中国人民共和国万才」右に「世界人民大団結万才」の電気文字。写真にとる。十時二十分、イルミネーションや電気文字が消えてしまつた。歩哨の兵隊がやつて来たが、なんともいはなかつた。この門前の道は前の二倍以上になつてゐる。市中の道路がどこも広く立派になつたのにはおどろく。並木の下に黙々とゐる物売り。明日はこの広場はたいへんであらう。また、三輪でかへる。二人で一円やつたら、好々とニコニコ顔をした。

5月1日(北京) ㊤ メーデー

- どんよりと曇つた空。シャワーをかぶる。すぐ朝食にと中原君いつて来る。チヨツキを一度は着たが、暑いのでぬいだ。朝食の卓に宮崎龍介氏が来てゐる。白蓮さんも年とつたが、この人も老人になつた。労働者の招待状。胸につける観礼證の赤い記章。各国の人たちも出発のため階下に揃つてゐる。インドで逢つたインド代表。
- 九時前、バスで出発。表門から入れないといふことで、グルツと市中を廻る。街の人たち、子供にいたるまで、ニコヤカに手をふる。北海公園の中を通る。池の橋をわたる。左手に、白塔、ラマ塔。紫金城内に入ると、バス、自動車一杯。降りて歩く。幹は太いが低い杉の木。ベンガラ色の高い壁。美しい屋根瓦。各国の人たちがぞくぞく行く。ビルマの人(頭にフロシキ、尖つてゐるのは中に竹カゴ)

*宮崎龍介氏（白蓮夫人の旦那さん）来てゐる。

- 東二台に上がる。燕しきりにとび、笛のやうに鳴く。笛の音しきり。整理の巡查。美しい旗の列。若葉。
- 中央白衣の一団。軍楽隊。五百人位。
- 前門。と天安門の間に建設中の高い塔——趙さんが、人民英雄塔といつてゐる。昔の革命から、抗日戦争を含めてといふ。

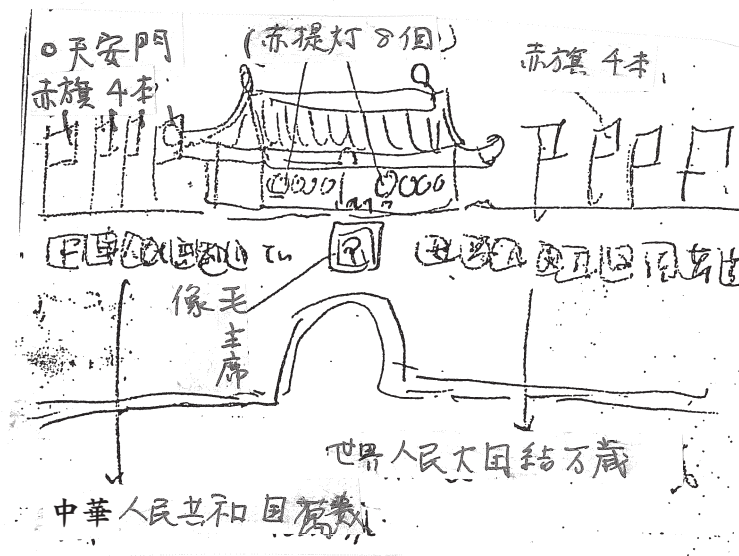


図12

- 学生、白上衣、花、花園の地を。
- 台上は色々な国の人（アフリカらしい小母さん、キセル、芭蕉葉のウチワ。）
- 行進して来てズラリと一間おき位にならぶ兵隊。白手袋、礼装、直立不動。
- 左手から行進してきた先登の一隊。大きな文字。慶祝五一国際労働節
- 10m、毛主席、天安門上へ。大拍手。要人たちも居ならぶ門は20mの高さ。（?）
- 挨拶、彭真市長。アイサツ・市長。
- 東方紅の曲。ゆるやかで荘重なしらべ。みんな脱帽して、しいんとなる。
- 国歌。すごい対砲、歌の間中、百門、28響。鳴りひびく。
- 行進開始、「慶祝五一国際労働節」の大文字先登に二人の女の子。国旗をささげて旗手、女の子たち、みどりの旗に鳩 風うしろからふき、旗前にひらめく。
- ピオニール、みこしのやうに毛主席の像、ピオニール兵隊。
- スローガンの絶叫。—これにこたへる群集。拍手。

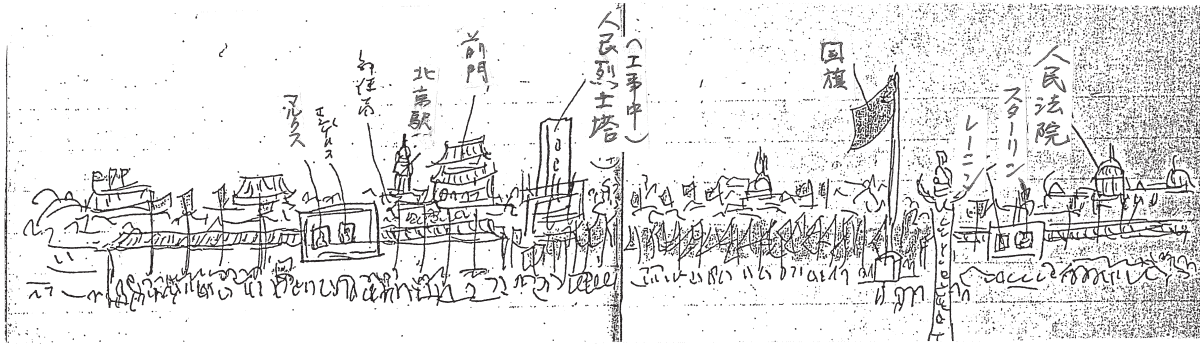


図13

- 白上衣と赤スカートの少女隊。白衣と花、リボン。
- 花輪をふる。「毛主席万歳」と絶叫。
- 濃緑の□と、緑の花
- 風船隊
- 数百羽の鳩、列中からとび立つ。
- 青と赤、数千の風船、空へ。アドバルーン風にスローガンの垂幕。
- 労働者隊(腰太鼓隊) 赤旗、国旗。
- 紺色の洪水。拍手 手に持つ造花。
- 五色の旗「世界平和万才」 ○ 肖像プラカード「世界人民大団結万才」又のりの絶叫
- 機関車の模型、工会別(長辛店 鉄道工会)
- 生産完了を示すプラカード。
- 紡績女工、エプロンと花。
- 鋼鉄工場、煙の出てるエントツ、キカイ
- 電車工場、電車模型をかつぐ。どよめき。
- 「原子兵器使用反対」のプラカード。
- 「労働者諸君万才」のマイク。「農民諸君万才」
- 道路舗装会社工会(人間と顔の大洪水)
- 炭鉱労働者(登山帽のやうな帽子をかぶつてゐる)
- 揚子江の流れを思はせる。○靖さんの列 ○台湾解放
- 旗に肖像

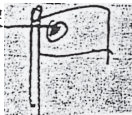


図14

- 靖さんの列 ○台湾解放
- 総工会……アヒル、牛、豚、魚の作りもの
- 休憩。下でジュースをのむ。
- 三好「身体好 学習好 工作好」毛主席が学生に送った三導

- 学生たち、少数民族—北京大学
- グルグル廻る地球儀
- 航空学院—ヒコーキ模型（ヘリコプター女の子乗り花束ふる）
- 動く花園、桃色、赤、みどり。
- 「労働人民芸術」のアドバルーン、空へ。三つの風船。
- 12時 天へあがる風船「中蘇有効万才」「毛主席万才」
- たえまない楽隊。
- 中央民族学院、いろいろな服装
- ワツシヨイ、ワツシヨイときこえる。万才、万才（マンセー、マンセー）
- 北京医学院
- 和(平)万(才)の金文字
- はじめからずつと、直立不動姿勢の異国列兵隊。丸帽 白手袋、カーキ色。
- プラカード「反対使用原子武器」
- 大学郡部隊。いろいろな服装。花輪をふる。
- 牧ノ内さん「毛主席はしまひまでゐますか」と何さんにきいてゐる。傍できいてゐて顔が赤くなる。
- 「中国文学芸術界連合会」（12時30分）
中国美術学院、北京電影学校、中国戲劇家協會、中国京劇院、中国民族歌舞団、北京曲芸公会中央歌舞団 北京電影製片廠、梅蘭芳のプラカード。（この一団少い。）
- チェツコスロバキヤ踊子、踊りながらダンスしながら行進。
- ヴェトナム、白い笠を振る。
- 「草原之歌」新劇近演のプラカード。
- 文化部北京舞踊学校。
- 洋劇
- スポーツ大会、美しい行進、白、青、うすみどり、紺の上衣、パンツ、健康さうな足の波。女の子。丸い赤い輪で体操。
- 棍棒を持った男の子、体操。（下に休憩室。降りてジュースをのむ。）
- アレーの音、黄上衣、紫上衣。○12時45分。行進終つたらしい。
- 全員、広場へ出て来る。軍楽隊行進して前方へ。國務院。
- 風船無数に上る。
- 天安門上の毛主席立ちあがり、群衆に手をふる。こつち側の端まで出て来る。鳥打帽のやうな工人帽をとつて振る。光る額、豊かな風貌と、ガツシリした体格、しきりに帽子をふり、自分で拍手する。大喊声。歩いて向ふへ行く。会釈にこたへる群衆。一言もいはないし、演説もない。すつきりしたものである。
- 退出。1時。またバスのところへ。車がびつしりつまつてゐて、このバスだけ動かない。日本メーデーと中国メーデーの話、その他。
- 北京メーデーの美しさ、お祭としてよろこぶ心、どんなに美しく楽しくしようかと心を使つてゐる。

日本メーデーはうすぎたないが、それはたたかひであるため。ケンカ腰メーデー。各団体代表の不必要に長い演説。椅子のとりやりのいさかひ。

- 帰りは別の道を通つて早かつた。立ちどほして足は棒、腰がいたく、直射下に無帽で立つてゐて、顔がヒリヒリする。ベッドにひつくりかへりひと眠り。
- 4時 和平飯店(?)に一同で行く。日本からメーデーに招かれた労働代表50名あまりと会談、インド代表の挨拶(吉岡さん来ず、小林さん)自己紹介、畑中さんの状況報告。九州からも来てゐて、みんなと写真うつる。翫右エ門さん、亀田さん、金子堅太さん、関鑑子さん等。関さんの歌で散会。
- 6時半夕食。8時出発。ぞくぞくと天安門前の広場へなだれて行く市民大群。
- 交通整理の巡查。黄色い帽子に白い袖(これは両手をひろげたとき、夜でも標識になる)黄色いズボン、黒いズツク靴、赤いメガホン。武器は持つてゐない。
- 真黄色い軍服の人民解放軍兵隊。
- 天安門前。人の渦。花火あがりはじめる。すごい音、爆竹の大げさなもの、美しい空、紫と青の探照燈。当惑してゐるやうな半月。鳴りひびく音楽、踊り狂ふ群衆、舞ふ旗。仕掛花火はない。雷鳴と機関銃のやう。足下にひびく。
- 左手に光る「世界和平万歳!」の金文字。
- イルミネーション(中央法院、北京駅前門、国際ホテル、北京飯店等)
- 花火の煙でモヤをかけたやうになる広場。
- 花火のコナが天から降つて来る。眼にしみる。
- 美しいイルミネーションの天安門と、八個の大提燈。紫禁城内も光でかがやき、自動車で埋められてゐる。いたるところにある「解放台湾」のスローガン。10時帰る。街を埋めてゐる群衆。
- ソ連行について懇談。
花火、寄贈ばなし、社会主義的花火

5月2日(北京) ㊶

- 朝、吉田君にソ連行について話す。諒解する。
- 今日はお休み、自由行動といふことなので、天橋に行くことにする。一行、鈴木、近藤、坂本、松本、富永、それに秋元さんが同行。三輪(60銭)にゆられて十二時ごろ出発。どこか外で昼食をしようといふわけ。
- 天橋。
- 二友軒。票価。五份。孫創池表演科学魔術 米人首の蛇の伝「美帝大長蛇」「真人芸術表溶」
- 「客満」入れ替を待つ。驚巧魔術文武雅技新奇幻伝「不足三市尺的兒童謝絶入場」
- 少女、床几、不□、茶わんと玉、汗□
- 手品、紙と布、トランプを小さくする。
- 幕あく。花鉢、花の上の女の顔 「少幻綺」「智理測驗」「清用脳筋」「巧影身」
「徳昇居、酒飯舗」
- 食賓-

- 毛主席以下の肖像 (○ トナリでノゾキ ○ タイコとカネ)
漬水餃子 猪肉韭菜 拾個壹角五份
- 五星埠酒 (北京)。衛生、熱湯鍋で食器を洗ふ。
- 写真屋。その場で現像焼付する代掛。2円80銭。長方形の箱の中に手をさしこんでやるのである。
- 前門外。食べもの屋のないのにおどろく。大柵閣。昔の色街のあつた附近歩く。いまはなくなつてゐるらしい。女はどこかに集めてミシンかなにか習はせてゐるとのこと。食べ物屋はどこかに集中したおいしい店があると松本辺剛さんいふ。
- 東安市場 (入口のうへに毛沢東)
- 小犀珠宝店 (張団珍) 東安市場場務委員会 検査輔導組地区地段暨負責人員名單四地区、正街地区 召集人……張団珍
- 40円の珠数、どうしてもまけない。正札を受けとり。「北京市統一發貨票」
- 老舎さんに逢へたといふ。坂本君
- 映画「無窮的潜力」(首都劇場) 東北電影廠
- 翫右エ門さんと二人で北京飯店に行く。
ハイのこと 五滅八浄

5月3日 (北京) ㊦

*毛沢東の字

新聞「人民日報」胡風 密告

文学者座談会

- 亀田さんの話、ソビエト行。
- 碧雲寺 (青山)
- 西方に仁王。堆輝無頭。
- ホテイ、(銅) パチンコの玉挿してあるやう。弥勒 (ミロク) !
- 本廟、仏像 ○ 婆沙蘿樹。
「反対□ 蔣条約堅決開放台湾」
- 三ゾウ法師 孫悟空 仏像壁面。
- 乾隆帝、御製 (石毫の上) 御筆。
- 「孫中山記念堂」(宋慶齡さんの字) ソ連から贈られたものといふ棺
孫中山像 (石膏) 大理石壁、なか あとで彫るものらしい。
- 像のうしろの赤壁、百五十回ウルシで塗り、それを彫つた。花の形。
- * 中印式金剛堂座塔 1748年 高さ34.7m
- 後の高い石塔に登る。すばらしい石の門、中央に「孫中山先生衣冠塚」
- 上部に「煙在菩提」漢白玉石
- インド、チベット風の尖塔。
- 三代□ 十代二代 柏□三代 白菓樹 (銀杏)

- 泉のわく池。(青瀧□□手洗東西) 東西(トントー)は品物。
- 羅漢堂 1744年 508寺
- じつに面白い□□の列にいろいろちがつた顔。108体 目は□の上に。
- 合作ラカン、スリラー ツンボ ○ 頭の上の頭ラカン。
- 実験劇場
歌舞晚会(中央歌舞団)のプログラム(パンフレット)



図15

表紙の上に スペテ ソ連式演出 コサック の記載あり。

実験劇場。

(感激癖) (李さん「頭に東京、北京の歌がこびりついてある」)

5月4日(北京)五四運動紀念日

- 吉田君はよく寝る。イビキもかくし、寝造がわるいし、起さなければいつまでも眠るだらう。
- 9時40分出発、紅十字会に行く。日本に来た李徳全さん他、幹部。知つてゐる人もある。両方から紹介。安部女史、泣きさうな声で、胸がつまるといひ、少女のやうにはにかむ。

○ 李徳全女史の話。(ものわかりがよく親切さうな小母さん)

1904年、紅十字会成立。解放前と後はまったく二つのちがつたもの。17才位から参加、革命的人道主義工作に専念。衛生、健康、救済。病院、学校。□奉仕隊を海南島派遣、堆河の堤防工事の援助、去年水害のときは、衛生部と協力した。武漢へ衛状隊派遣、国民党の時代なら出来なかつた。伝染病がはやらなかつたことは中国はじまつて以来のこと。国際主義教育もやつてゐる。1950年、アメリカが朝鮮侵略したとき、衣料隊とともに行き、一ヶ月滞在した。アメリカ機が爆撃したのをこの眼で見た。無辜の人を殺し、町を焼いた。(強い憤りの表情と語調) 子供が母親からもぎとられ、守ろうとして殺されたむごたらしい母の姿も見た。新義州平壤において、赤十字の旗が有るのに爆撃した。男子は少く、婦人が畑仕事、夜は道路工事、非人道的アメリカ帝国主義への思い。七つの衣料大隊派遣。世界平和、アジア平和のための仕事。国際大会において朝鮮の事態をバクロした。また仕事は追加点がある。皆さんとともに世界平和のために努力したい。

○ 牧ノ内さん、戦犯問題を出す。(面会と帰国)

○ 李さん「これは政府の問題だから、戦犯に逢ひたいといふことも、紅十字会としてできない。政府の委託をうけたならばすぐに協力する」

○ 永瀬さん、感激。母親として敬恭。「日本軍国主義と、兵隊がおかした罪をおわびいたします。わたしたちも被害者、ヒロシマ。自分も戦争のため田舎へ。二度と子供たちに罪をおかさたくない。わたくしを大分推して下さいました。婦人たちとともに平和を守りたいと切に切に。」

○ 李さん「平和を守るは婦人の責任だが、男子も責任をもつて貰ひたい」安部女史「今度は男子の発言ですよ」

○ 富永さん、無痛分娩成功の話、「無痛分娩の会」の会長を女房がやつてゐる。この方法は、ソ連、中国に示唆を得たもの。

○ 中村さん「朝鮮に居る日本人がかへれるやう、お力添えが願ひたい」李さん「朝鮮のことに干渉することはできない。日本赤十字社から朝鮮赤十字会に交渉した方が筋道と思ふ」

○ 秋元さん「無痛安産に二つ、アメリカ式とソ連中国式。アメリカは麻酔安産、おたくの方は精神的無痛安産、人民精神統一が根源と考へる。日本では精神統一がむづかしいので、これから大いにやりたい」(失笑する)

○ 鈴木さん、「北海道に李徳全さんは来なかつた。今度はぜひおいで下さい。これはたいへんやさしいお願ひ」李さん「もう一度 会ひたい」

○ 宮崎龍介さん「むづかしいお願ひ。戦争になつてから、弱者を介抱するのでは赤十字も無意味、日本はアメリカの宣伝によつて、共産軍が攻めてくるとおびえてゐる。戦争しないといふ約束してもらひたい」「恐らく中国人民は、百パーセント平和のため戦ふだらうことを約束します」その他。

安部女史、李女史と抱きついて感激。下の部屋に日本訪問時の土産品たくさんある。記念撮影をして辞去。表門のところまで、一人で見送つてゐる李さん。

* (クリミヤ戦争のときのナイチンゲール、赤十字の初まり) 李さんを見てラメシュワリーが夫人を思ひだす。

○ 午後2時、バスで出発。毛主席のかぶつてゐる工人帽を買つてかぶる者増える。富永、松本、近藤、

牧ノ内さんなど。いろいろなこつちのバッチをつけてゐる者もある。流行と追隨への警戒。

○ 国営五里香農場。(北京市国営南郊農場)

23000畝(日本の六畝)一部は日本軍弾薬倉庫、一部は荒地、人民の要求にもとづいて作られた。牧畜と農業、牧畜に重点。乳牛928頭。オランダ種と中国種の交種牛、シンメタール牛、その他、コストも=(ソ連)牛少数、英国種すこし、中国牛と交媒したのは乳に脂肪率が多い。4%—5%。52年一頭2700キロの乳、53年3700キロ、54年4300キロ、55年の計量4500キログラム、豚1000頭、種豚70頭、種豚今年末120頭に増やす。17匹の子豚を一年に生む。肉豚、種豚が四種。中国種年2回、16-18子豚。英国ヨークシヤ、ソ連大白豚。繁殖率、中国ブタより低い。市民の栄養のため、中国と英国とをかけ、その子とソ連とかける。よい間豚ができる。

○ 農産物(牧畜のための準備、エサとして保存)野菜、ヌカ、ワラ、草などをまぜて食べさせる。飼料に穀物は使はない。

○ 乳を摩擦して交媒感情をたかめる。「外国豚は愛情が弱い」おしつけて離したりする。子豚うまれたらすぐうつす。乳のませるときには親の方をつれて行く。乳足りないときは他の豚借りてくる。

○ 兎、400匹。一年60匹生む。400匹が一年に三万匹になる。毛をとる、毛皮(アンゴラ兎)

○ 山羊、四種類、養ふに適地でないが、必要のため(乳をしぼる)

○ 池にゐる魚、500匹、葦魚が草を食ふ、その草。

○ 別の魚が食ふ、一つの草でみな養ふ。

○ 牧草一苜蓿(ウマゴヤシ)多い、ナドノ草ハヨクナイ。紅三葉、鶏草、無忘草(ワスレナ草)。

○ 水田 4500畝(300ヘクター)米収穫

○ 47年□ 50年二百数キロ、51年 312キロ(一畝当たり)、52年350数キロ 53年444数キロ、54年、大水のため減った。池の魚も逃げた。350数キロ、普通の農民より32%多い。棉2000畝。

○ 小麦(中国種)黄色くなる麦、トラクター12台、運転手バッテキされて、副農場長。馬力270、農具33種類、52年、利潤なし53年48億円(純利)54年、52億円

○ 他の農民の畑を1000畝、トラクターで耕してやつてゐる。300畝合作社を助け小農をおいてゐる。

麦優良種を4万斤、農民に普及した。附近農民65%以上が組織されてゐる。近くに集団農場(ここと同じ位)約20000万がこれに入つてゐる。南苑区のうち一万戸位(組織されてゐない農民もある。)別に、国営のトラクター、ステーションがある。人力で耕すと同じ位の費用でトラクターを貸してやる。

○この農場で働いてゐる人、849人。(婦人44名)冬7時間半、春8時間、秋、農繁期10時-12時間、償銀一期経験者34万、牧畜40円、キカイ52円大部分農場に住む、家族ある者も1/7中に住む家賃20平方m・2円(水道電気入れて)10平方m1円、新種労働者タダ、修繕費に使ふ(一時の半分)一切の福利費をもらふので、名目賃金より高い。現物手当はない。奨励金、一万円—15000円 一年に300日働く。休んでも支給するので、農繁期に長く働いても別手当はない。

○ 場長給料109円(副場長78円。)子供は国家で全部支給しているので、□□すれば高くなる。(どうして、別の□方が高いかといふ質問)外部で工作してゐたときの給料のままになつてゐるといふ。

○ 外に出て見学。(場長のとなりの男、笑ふと不愉快さうにしてゐる。)

○ 労働者部会、一定 14人、自転車7、時計5、○種類モホキ、東北製、ソ連製、トウモロコシ収穫

機、棉キカイ

- 農薬撒布機 6m-10m 範囲。
- ソ連二十四号コンバイン (麦その他の収穫機) すごい発達した農具。
- カマキリのやうな草刈機 10m 位の幅を切ることができる。
- 女トラクター運転手一字も知らなかつたのに勉強し、今は分隊長、色の黒いボクハツの若い女。
- トラクター修理工場。
- バスで、飼料のところへ。三十年ももてる。牛のもの。北海道にあるサイロで作る。臭気、つかんで説明する場長。(ここは、日本軍爆薬庫のあと。入口のプラットフォームを利用した) 爆薬倉庫は牛の家になつてゐる。
- バスとまる。通訳「いま車を消毒してゐます」「ショートツ?」とびっくりする者。
- ずらりと植えられたポプラの木。
- □□を止きたないなどといふ。こと□□□□す□□
- ボンダで。
- 長安大対院 (京劇)
- 鉄面無私清官譜。

The poster is for the Beijing Peking Opera Troupe II performance at the Chang'an Grand Theatre (長安戲院) in 1955. The main title is '北京市京劇二團演出'. The program includes several plays, with a prominent one being 'Anti-Imperialism and Pro-Soviet Union' (反對美蔣「共同防禦條約」). The poster lists the names of the performers, such as Yang Shengchun (楊盛春), Chen Yongling (陳永玲), and others. The performance date is '五月四日星期三夜場' (May 4, Wednesday, Evening).

図16

中国行。班別 (4月21日)

1. 泊屋 吉見、松本、安倍、松岡、中村
2. 富永 早坂 松本、近藤 松本 朝田、鈴木。
3. 火野 丹野、永瀬。泉 吉田 和田

4. □ 勞、竹中、長安へ 畑中、竹中、吉岡、小林。

2 円80 銭

印度氷河 (恐しい氷河、ヒマラヤは暑くて真夏の中にある)

花びらにうつる牛のかげ

○ コジキ

○ インバイ、ネール

アグラ 不毛の中の豪華 花と牛

ヒンヅー教

オシャベリ、デシャバリ、オセツカイ

トンチンカンノマトハヅレ、ミエボウ

「花にさはるな」

王保祥

平和委員 羅培元 「中山大學」副長□

○ 大釜飯(動民)

婦人連資 何明

京都 二つの劇団(楚劇 漢劇)

学習室主任

河南 豫劇

丁玲 国立観「暴風」

虚友 越劇

松本氏

訳劇 京劇

陳残雪 華南文芸工作者連合会 常任委員 中国作家協會広東分会。

「作品」7000、四月創刊。

「高玉宝」。——三十万□□、三十□□、解放軍兵隊

崔八娃——兵隊——実農民

劉白羽(北京、援助した)

ネール首相と新中国(長谷川君絵)

大統領府の中に博物館がある。そこに、ネールが中国を訪問したときに土産にもらつたものが陳列してあるが、その中に白石老人のエビの絵もあつた。ネールは中国からかへつた当座、神経衰弱になつたかと疑はれたほど中国を気にして元気がなかつた。それはどうやら新中国のたくましい建設ぶりを見せられ、インドの遅れてゐる現状と比較して、自信をしばらく失つたのではないかと思はれた。ネールが元気を恢復するまでしばらくかかつた。今は大衆宴会を週一度くらゐはやり、諧謔をまじへ、さまざまの言葉でしゃべつて接触を深めてゐる。

ネールは世界の平和、アジアの平和よりもインドだけのことを考へてゐるのではないか。ネールが、社会主義はインドでは自分の生きてゐる間は実現しないといつたといふがほんとうか、どうか。

文化問題（インド諸国会議）

文学——Narayan “Bacherler of Asia”

Amand «Caolie»

“Unto chubu”

詩人——Bonkey Swan Natam

発表ギロンがない。

演劇——前1回。

映画 DO BjGHH 2 AMIN PATEL

美術——Rama Kumar

ジャミニー・セイ

アミルタ・シェルギル

（女、マクオ□ 炭□の石）

展覧会

予定（4月21日夜）愛群大廈

4月22日 8時食事 越秀山（博物館 中山紀念堂 毛沢東）

9時出発

昼食

午後 中山大学見学

黄花崗（革命発祥地）

夜 嶺南ナントカ……

午後、11時55——広東発

24日 漢口（午前4時頃）

27日 北京着（上海ハ北京後）

4月22日夜 寝台車

05—黄

青——7

中国から日本への郵便

ハガキ

45銭——航空

13銭——フツウ

封書

54銭——航空

22銭——フツウ

一、中国と日本との文学的交流についての意見。(翻訳権の問題)等。

一、文学教育の問題

一、農民文学——吉岡氏

土地改革

○一九四九年十月一日、国慶節

「腐蝕」(女主人公の日記形式)重慶政権下のスパイ、抗日陣営中の腐蝕部分

茅盾^{マウトン}(全国文学芸術典昨今会主席)(本名 沈雁水)

夏衍^{シヤエイ}(文化部副部長) 丁玲「霞村にゐたころ」抗日戦の中で日本兵士に強姦された陳おばさん

曹禺「雷雨」(劇作家) 「太陽は桑朝河を照らす」(坂井徳三訳 ハト書房)

周揚(批評家) 周立波「暴風驟雨」(鹿地旦、安島訳 ハト書房)

老舎

○ 三日、文学者座談会(九時)

○ 午後 丹野、安部、吉岡、竹中、坂本、永瀬

長谷川、近藤、中原、泉、鈴木、松本、吉田、火野、畑中

⑮

東空碧 ○堯 劇作家「三千里夢中」

○

○ 人民文学編輯所長

□□□□

詩人

文芸学習

朱子奇 詩人

趙安博

干振瀛

陳叔通 中国人民保衛世界和平委員会副主席

文学者座談会(五月三日)

○ 徳永直、岩上順一來た。文学の主張。○中国についての意見を出して欲しい。

○ 中国の新文学について——□□□□

アイセイ

二つの文学——魯迅、ゴーリキイ。一方では自由の土地。世界のつながり 社会主義リアリズムの道、新文学、五四運動からはじまる、中国革命の行動、反帝国主義、反封建主義もう一派の主張=白話(口語体)を使へば新文学といふ。しかし、そうではない、内容が問題、五、四運動は、二つのスローガン「文学革命」「革命文学」一九三〇年左翼作家連盟成立までつづいた。この時の文学□さは魯迅先生。

一九三七年、抗日戦争研究＝中国文学は今迄、随日本帝国主義反対。後期にいたるまで弱点、人民大衆とはへだたつてゐた。内容、形式とも。一九四二年、毛主席の「文芸講話」発表までつづいた。(延安にて)作家は革命への情熱を持つてはゐたが、人民大衆と結びつきがなく、考へ方が分離してゐた。

「文芸講話」——作家は人民の生活の中に入る事、広汎な愛読者、農民兵士に奉仕しなくてはならない。その形式も、文学まではわからないが、自分の見方をのべた。

- 解放前、解放後といふ区別が重大でない、「文芸講話」がその別れ目と思ふ。
- 作家の思想——外国の人は怖がるかも知れませんが、さうならなくてはいけない。描く対象を理解しなくてはならぬ。それはむづかしいが、人民大衆の中に入る事によつて解決される。
- 話せば五分位わかる。
- 以前はインテリのみ、今は労働者の中へ行きわたつてゐる。包括的に補つたのだった。解放前と解放後とは区別しにくい。五四運動、ロジンの指導。ゴリキイの学習、作家が進む方向の講話は明らかになつたが、深さでは足りなかつた。延安「文芸講話」土地改革運動のとき、作家も農民村に行つて生活をともにした。
- 蒋介石下の進歩的作家も、毛主席の指示の方へ進みたい意嚮、しかし、地域的に分離、抗日戦争反蔣、反帝作品も生れた。
- 解放後、作家の会合も多くなつた。一方が会議、第一回、全国作家大会、これ以後一層大きく前進、蒋介石打倒、作家の精神的、物質的の圧迫とりのぞかれた、作家へ援助。

○ (中国作家協会私書長)

作家の生活は解放前後で大きな差、前は作家は文学乞食の名、後は光栄ある地位 前はどこへも行かれない。農村にも 工場へも、舞台も、——後はどこへでも行ける。工場へ行き住むことも出来る。朝鮮戦線へも行つた。志願部隊で生活した。もつと歓迎な者として兵士に歓迎された。群衆の中へ苦しみに行つたのではなく、感動をうけた。生活のわづらひはなく、どんないい作品をかくかといふことに専念。蒋介石は一千字 米一斗と、いふことになつていたが、実際はらわなかつた。今、一千字につき、五斗、乃至一段の報酬。十万字の本——三千元。政府の部長級(大臣級)と同じ。

「延安を守る」の作家の作品のあと□□は二十年生活できる。農民なら一生くらせる、八九万円位。

もし一人の作家が作品がない場合、中国作家協会は作品をかくまで手当をあてへる。国民党の支配してゐたとき、政府と妥協しなかつた、今の作家は全部政府と合作、三十人位作家は全国人民代表に選挙された、三パーセントに当る。しかし、政府を批評することができる。作品の中でも。

- 二重追加。「文学の会合」は蔣下だけ。
- 古典文学、民話、伝説書の伝統がどのやうにとりあつかはれ、うけつがれてゐるか。

大問題。民族文学の伝統を尊重してゐる。それは発展する、歴史の発展の段階からこれを見る。新文学の創造は社会主義だが、形式は古いものもとる。中華民族は立派な遺産、文化の伝統は保守的な面を、封建的な要素と、民主的な要素とふくんだ二種類。

古典文学についての仕事は、これから研究、考慮しはじめたばかり、初歩的段階。批判しながらうけ入れる。整理して登場する。文学研究所(古典文学に重要な部分)「紅樓夢」の評価から出発。精神の

糧として受け入れられる外、リアリズムの立場から見の一つの特長。「水滸伝」李白、杜甫等も研究。民間文学研究所、「七夕」-牽牛星と織女星、「白強伝」「梁山泊」祝素通なども、御本などにかき改める。

○ 文芸批評について

活発。大きな特長のある作品が出ると、読者の間からまつ先に批評が出る。意見があるとすぐ手紙をかいて「文芸報」「人民文学」「人民日報」に出す。文芸批評家が批判。作家と批評家とは意見があれば、作家協会で討論。工場や学校でも批評座談会。文芸批評は専門家と人民大衆との結合。

◎ 批評の自由。よい物正しい物の発見、ブルジョア的なものをなくす。「紅樓夢」批判。愈平伯と胡適。三百以上の批判文が出た。

「文芸報」に対する批判——「紅樓夢」問題に錯誤、愈平伯がまちがってゐたのに、□□したので、批判された。

一、自由な論争を展開 二、プチブル階級に投降することに反対 ブルジョアジー、思想 三、新しい力を養成する。

胡風批判、哲学——主観的唯心論、自己誇張が大きい。看板はこれ□□レーニン主義装ふ、二百以上の批判文発表。胡風、思想検査してゐる。愈千伯反省、自己批判大分。

○胡適 胡風

○胡遍

アイセイ先生

民族文化について補充。歴史的価値あるもの保存。批判的態度で。本国自慢と、外国崇拜への傾向、復古主義とを主張する人は外国を崇拜してゐた人がある。

○ ギインギ先生「文芸学習」

文学の普及と向上。毛主席の教への方向に。農豊奇へ浸透すること、向上はこの一途、人民大衆には文化的意識ひくい者あり、道徳読物を出さなくてはならない。思想的低いもの、芸術的価値あるもの、エログロ追放。

2、道徳読者出版社、「三里法」出版予定、 作 初歩的読物、保守的なものをえらぶ。

かきあらためようはなく、部分を出す。「鋼鉄はいかにしてきたへられたか」すつかりやすくかきあらためた。

口頭文学—二人で話しあふ、「太鼓詞」太鼓をたたきながらやる、——研究機構。友人、妻、愛人、イ字だけに書くのではない。普及の必要——家にとじこもらない、蔣下と区別、「三千里」江山「延安を守れ」(五十数万部) 大鼓詞—昔の芸能 街頭でなく小劇場、天橋でやったこともある。

○絵入りを披露、胼胝図画

○雑誌—自分で投稿が大変更。

○依存原稿もある。専門家、創作計画を立ててゐる。早くから作家団体に出してゐる、出版社は作家から原稿を貰ふ。作家でない人が直接送る、多い。

一千字——一万冊—定格

専門的な本、売行のない本、定格がある。発表前審査しない、発表後批判。

文学計画—長期計画、出版計画は伸縮性が大きい。

中国作家協会、五百四十数名。

各地に分会、地方貧 約六百名、除名することがある(人民の利益に違反した場合、国家の法則にそむいた場合) 道徳的腐敗者はいれないし、入つて居れば除名する。思想問題は含まない、批判し計画するだけで 会□には触れない。愈平伯は今なほ会員。入会失格—主として作家、「作品」が大衆から推選された者、会員の者、学生等

○現在もつともよまれてる作品

一般創作は□□□。

丁玲「太陽は桑乾 河を照らす」

図書館 「暴風驟雨」スクリーン賞「白毛女」

杜鵬程 「延安を守れ」長篇 一九四七年の戦争をかく

「幸福」短篇

「三千里江山」長篇 朝鮮□本

老舎「有名になつた無名の高地」

エッセイ著「黒い姑」長編。

「高玉宝」高玉宝著

基準が低かつたが、□□□□が知つた

文化部で知り、北京に呼んだ、まづ書かせて荒草(作家)がこれを見て添削した、二十五万部出た、こんな人は他にもある。

○ 源氏物語——日本古典解釈書の中にあがつてゐた。「文学学習」の目線、初歩的なもので、むつかしい根拠からではない。

○ 世界文学名書選集——十五年→二十年

日本文学、万葉集、今昔、その他たくさんある。

一、東方文学研究(主に日本) 北京大学

二、外国文学研究会(作家協会の中、日本文学)

○ 文学交流の件。

○ 政治と文学——毛主席、文芸問題に深い関心。

(アイセイ先生) いつでも手元に文学書がある、作家とよく話す、論争がおこると

毛主席が発見、作家を支持する。

○ 「武着伝」を見て、毛主席ふんがいがい。

○ 愈平伯の謗を早くから主席が発見した。

○ 曹遇(?)「明るい空」) かくとき援助。
老舎「春華秋日」(戯曲)

○ 文学は思想の重要な面

○ 作家の今日の地位——戦ひえたもの 文通以上の□ある
張国珍、桃の種の数珠、40円（日本金六千円）

Hao yei wi Pin
ホイ エ ウイ ピン

Ashihei Hino 火野葦平